



2022年度第2四半期決算の概要

(2022年4月1日～2022年9月30日)

ご説明資料

2022年10月31日



 山陽特殊製鋼株式会社



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>

目次

1. 2022FY2Q決算および2022FY業績予想

損益の概要

事業環境

2022FY業績予想の修正

2022FY中間配当および配当予想

2. 3社連携によるシナジーの状況

3. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

4. 決算および業績予想の詳細

経常利益の変化要因(2021FY上期→2022FY上期)

業績推移(四半期)

経常利益の変化要因(2022FY1Q→2022FY2Q)

セグメント別損益、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

経常利益の変化要因(2022FY前回予想→2022FY今回予想、2022F上期→2022FY下期今回予想)

Ovakoの状況、SSMIの状況

5. トピックス

6. 参考資料

主要市場動向

業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

損益の詳細等

1. 2022FY2Q決算 および 2022FY業績予想

損益の概要 (対2021FY上期)

1. 2022FY上期業績概要

連結経常利益137億円(前年同期比+32億円)

- ・原燃料価格上昇の影響があったものの、販売価格の上昇・構成の高度化によるマージンの改善、Ovakoの収益改善により前年同期比増益

(2021FY上期のOvakoおよびのれん償却費は、決算期変更により9カ月間 (2021/1~9月)の数値を記載)

(参考) 2022FY上期の売上数量・・・Ovakoは2022/4~9、SSMIは2022/1~6

	2022FY上期(A)		2021FY上期(B)		増減 (A)-(B)	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価
売上数量(千t)	812	135.3/月	1,079	151.4 /月	-267	-16.1/月
内、当社単独	458	76.3 /月	511	85.2 /月	-53	-8.9/月
内、Ovako	303	50.5 /月	1-3月 178 4-9月 333	56.8 /月	-208	-6.3/月
内、SSMI	51	8.5/月	57	9.5 /月	-6	-1.0/月

2. 損益計算書 (対2021FY上期)

(単位:億円、%)

	2022FY上期(A)		2021FY上期(B)		対前年同期 (A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,954	100.0	1,833	100.0	+121	+6.6
営業利益	132	6.7	104	5.7	+28	+26.7
経常利益	137	ROS 7.0	105	ROS 5.7	+32	+30.8
内、当社単独	70	7.2	52	6.5	+17	+33.6
内、Ovako	89	10.4	1-3月 25 4-9月 43	7.4	+21	+30.6
内、SSMI(注1)	▲2	-	2	2.0	-3	-
内、のれん償却費	▲14	-	1-3月 ▲7 4-9月 ▲13	▲20	+6	-
税後利益(注2)	99	5.1	73	4.0	+26	+35.4
のれん償却費を除く税後利益	113	5.8	93	5.1	+20	+21.5

(注1) SSMIは、2022年6月にMSSSより社名変更 (注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

事業環境

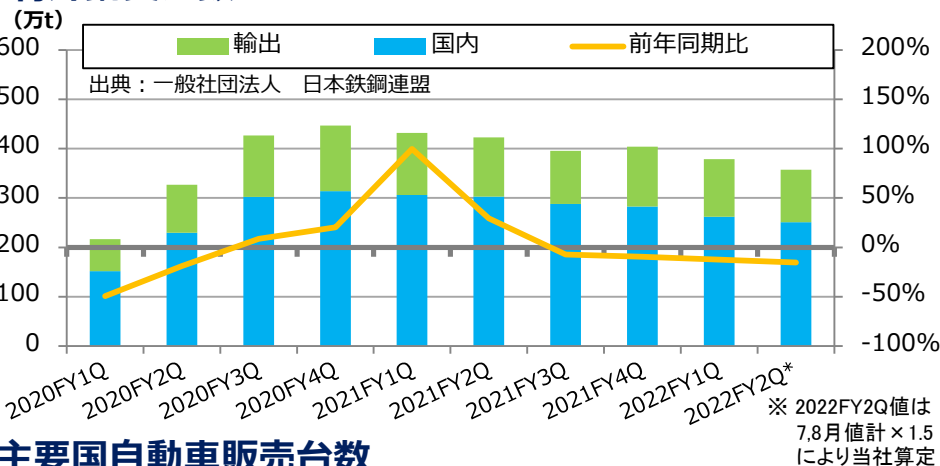
需要動向

主要需要分野は堅調も、半導体不足などによる自動車減産の長期化に加えサプライチェーンにおける在庫増減の影響が継続。インフレの影響による主要国経済の減速が懸念。

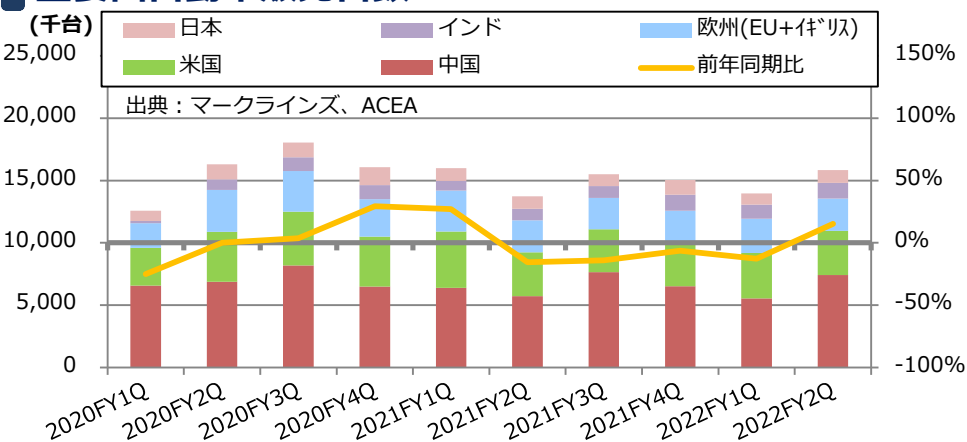
原燃料価格

原料価格の高騰は落ち着きつつあるものの、円安の影響もあり依然として高位な水準。今後もエネルギー価格の上昇が続く見通し。

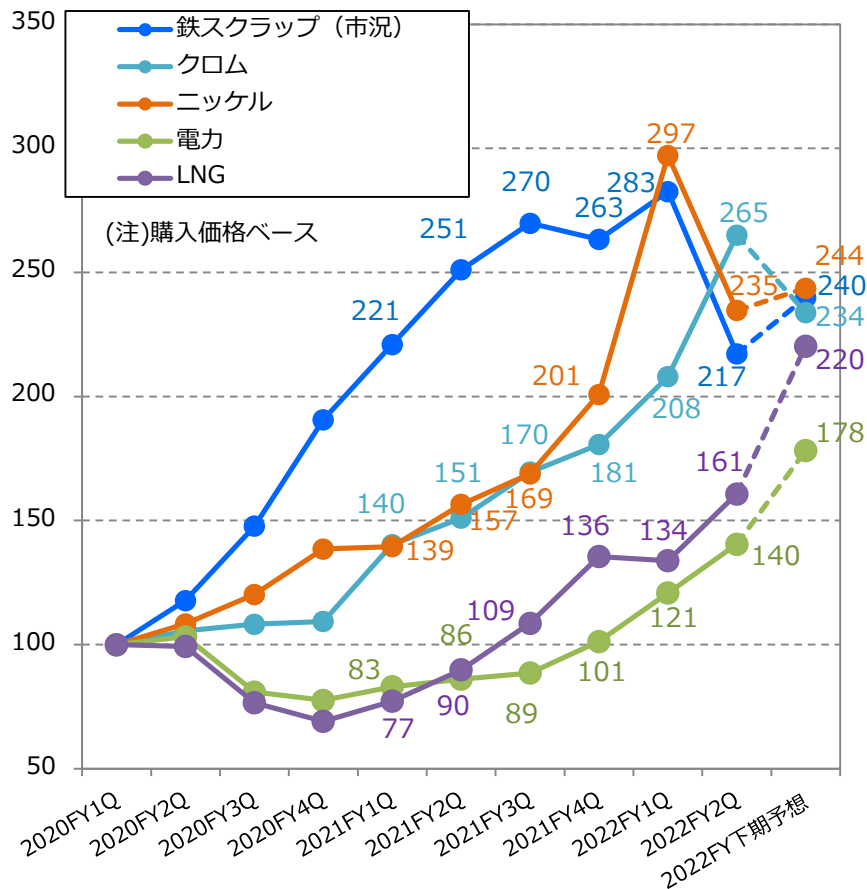
特殊鋼受注数量



主要国自動車販売台数



原燃料価格推移 (2020FY1Qを100とした指数表示)



2022FY業績予想の修正 (2022/10/31公表)

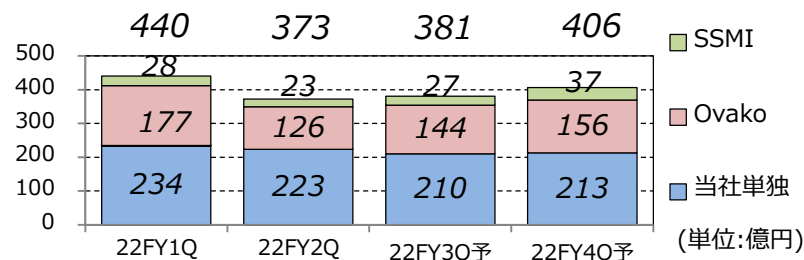
1. 2022FY見通し

・連結経常利益200億円(前回予想比+40億円)

上期は前回予想比+37億円の増益。下期は、前回予想に対し売上数量の減少を見込むものの、サーチャージ適用拡大等に伴う販売価格の上昇等によりほぼ同水準となり、通期経常利益200億円を目指す

・適正マージンの確保、海外事業の収益力の強化に努め、事業基盤の強化を図る

(参考)2022FY売上数量見通し(千t/Q)



2. 2022FY業績予想

	今回予想(A) 22/10/31			前回予想(B) 22/7/28			増減(A)-(B)		
	上期(実)	下期(予)	通期	上期(予)	下期(予)	通期	上期	下期	通期
売上高	1,954	1,896	3,850	1,915	1,915	3,830	+39	-19	+20
営業利益	132	64	196	95	60	155	+37	+4	+41
経常利益	137	63	200	100	60	160	+37	+3	+40
内、当社単独	70	35	105	50	35	85	+20	+0	+20
内、Ovako	89	31	120	70	35	105	+19	-4	+15
内、SSMI	▲2	2	0	▲3	3	0	+1	-1	-
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	▲14	▲14	▲29	-0	+0	-
税後利益(注2)	99	47	146	70	45	115	+29	+2	+31
のれん償却費を除く税後利益	113	62	175	84	60	144	+29	+2	+31
売上数量(千t)	812	787	1,599	816	824	1,640	-4	-37	-41
内、当社単独	458	423	881	460	450	910	-2	-27	-29
内、Ovako	303	300	603	305	310	615	-2	-10	-12
内、SSMI	51	64	115	51	64	115	-	-	-

(注1) SSMI : 1月~12月の数値

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

【予想の主要前提(2022年10月以降)】

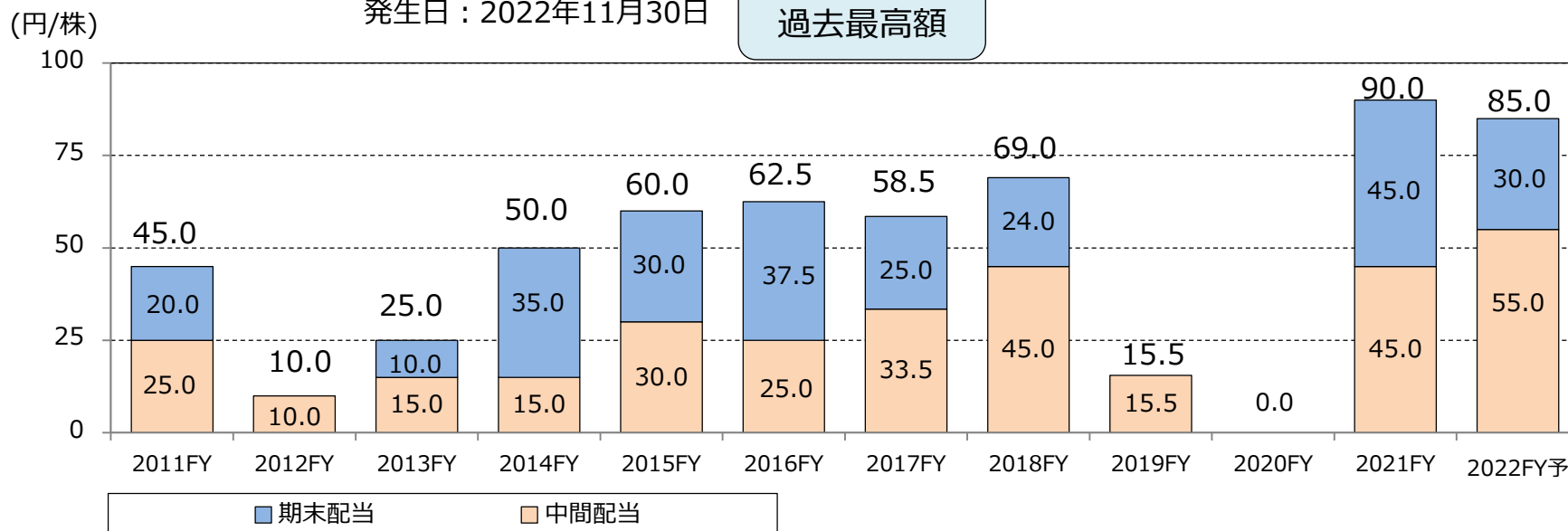
・鉄スクラップ(購入) 50.0千円/t (姫路地区H2市況)
 ・原油(ドバイ) 100\$/BL ・為替 145円/\$、140円/€

2022FY中間配当および配当予想(2022/10/31公表)

			今回予想 (A) 22/10/31			前回予想 (B) 22/7/28			増減 (A) - (B)		
			中間 (実績)	期末 (予想)	通期	中間	期末	通期	中間	期末	通期
1株当たり純利益	A	円/株	181.2	-	268.0	128.5	-	211.1	+52.7	-	+56.9
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	円/株	207.5	-	321.2	154.2	-	264.3	+53.3	-	+56.9
1株当たり配当金	C	円/株	55.0	30.0	85.0	45.0	30.0	75.0	+10.0	-	+10.0
配当性向	C/B	%	26.5	-	26.5	29.2	-	28.4	-2.7	-	-1.9
	C/A	%	30.4	-	31.7	35.0	-	35.5	-4.7	-	-3.8

(注) 2022FY中間配当の効力
発生日：2022年11月30日

中間期の
過去最高額



(注) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

2. 3社連携によるシナジーの状況

3社連携によるシナジーの状況

計画

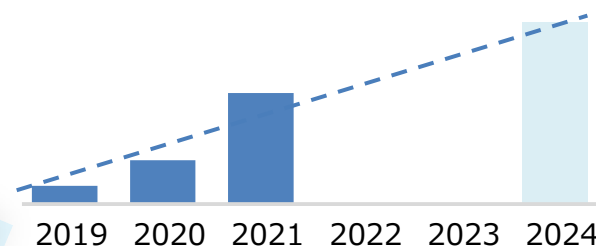
お客様のグローバル化進展と高品質ニーズに対応

- ・日本製鉄グループでのシナジー 100億円/年程度
- ・当社・Ovakoでのシナジー 50億円/年以上の発揮を目指す（2024年度=6年目）



2021年度実績（3年目終了時点）

Ovakoの生産性改善、3社の拡販を中心に計画を上回る進捗
当社連結業績の改善に貢献



効率的生産の追求

地域別最適生産体制構築、
操業ノウハウ共有、
海外生産拠点・物流網の相互活用

Ovakoの操業改善支援による
変動費・固定費の削減

お客様への対応力強化

営業・販売ネットワーク相互活用、
共同研究開発による提案力強化

顧客情報共有、新規提案等による拡販
製品価値訴求によるマージン改善

調達コスト削減

原料輸送効率化、集中購買

情報共有、
グループ内資源・インフラの活用

その他 (シナジー集計外)

安全、環境(CN)、品質、
R&D部門等における定期交流

3社連携によるシナジーの状況

具体的な取り組み

今後の取り組み（2024年度に向けて）

効率的生産の追求



Ovakoの操業改善支援

- ・日本製鉄・当社より、Imatra(フィンランド)、Smedjebacken(スウェーデン)へ圧延・製鋼技術者を派遣
- ・生産性向上、歩留改善、繰り返しトラブルの削減などを支援
- ・Ovakoの各生産拠点と日本側で定期会議を実施
操業改善の進捗状況フォロー、課題の共有・アドバイス等を実施

これまでの取り組みの継続・深化を図り、
2024年度のシナジーフル発揮を目指す

Ovako操業改善支援の
他生産拠点への展開
地域別最適生産体制の構築

お客様への 対応力強化



顧客情報共有等による拡販、 製品価値訴求によるマージン改善

- ・共同見積りの提示、営業・販売ネットワークの相互活用による
拡販（例、日系顧客の欧州拠点、中国地場企業への拡販）
- ・グローバル3社体制にもとづく製品価値の訴求

3社連携による拡販の推進
共同研究開発による提案力強化

調達コスト削減



情報共有、グループ内資源・インフラの活用

- ・調達情報共有による調達品・価格の最適化
- ・高炉発生副産物の電炉での活用、輸送効率化
- ・国内輸送インフラの活用による物流コスト削減

情報共有による調達最適化の継続
インドでの調達最適化

その他



安全、環境(CN)、品質、 R&D部門等における定期交流

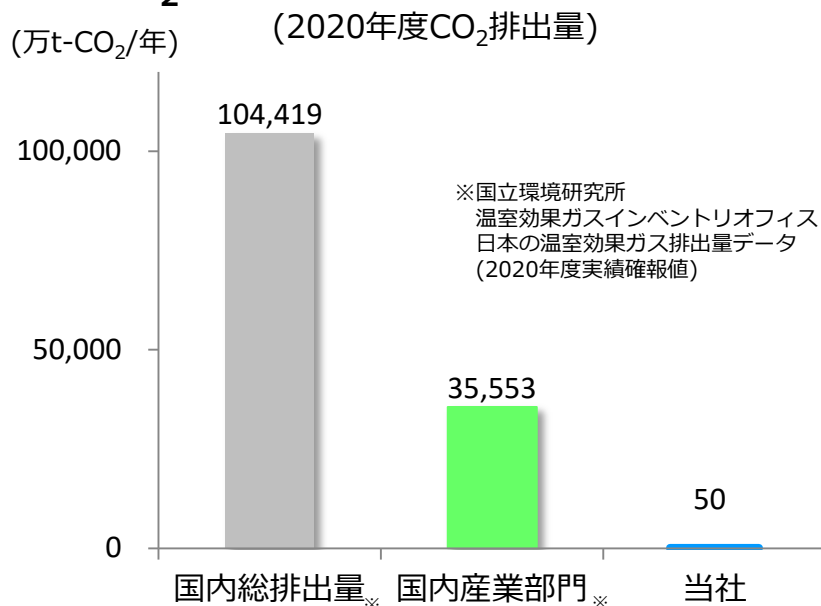
- ・「安全第一」の定着化、災害情報共有による安全成績の改善
- ・CNにおけるOvakoの先進事例の共有
- ・情報共有による品質事故(異材)の防止
- ・清浄度鋼の3社相互評価

安全・品質の更なる改善
人材交流の実施

3. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

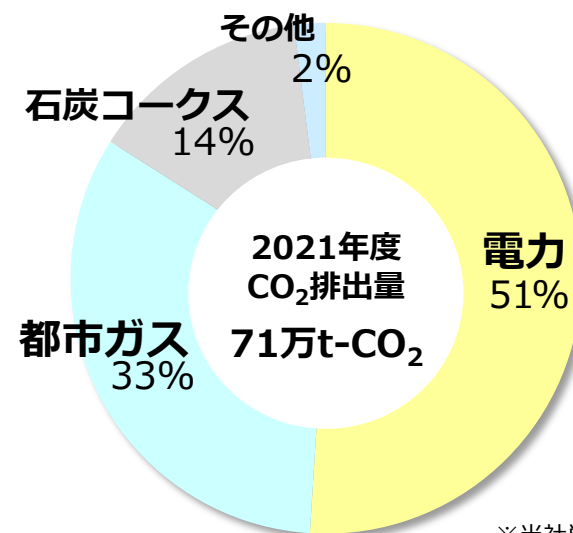
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

CO₂排出量における当社の位置づけ



- 再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO₂排出量は、国内産業部門の0.2%程度

当社のCO₂排出量内訳



- 当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す

GXリーグ基本構想への賛同

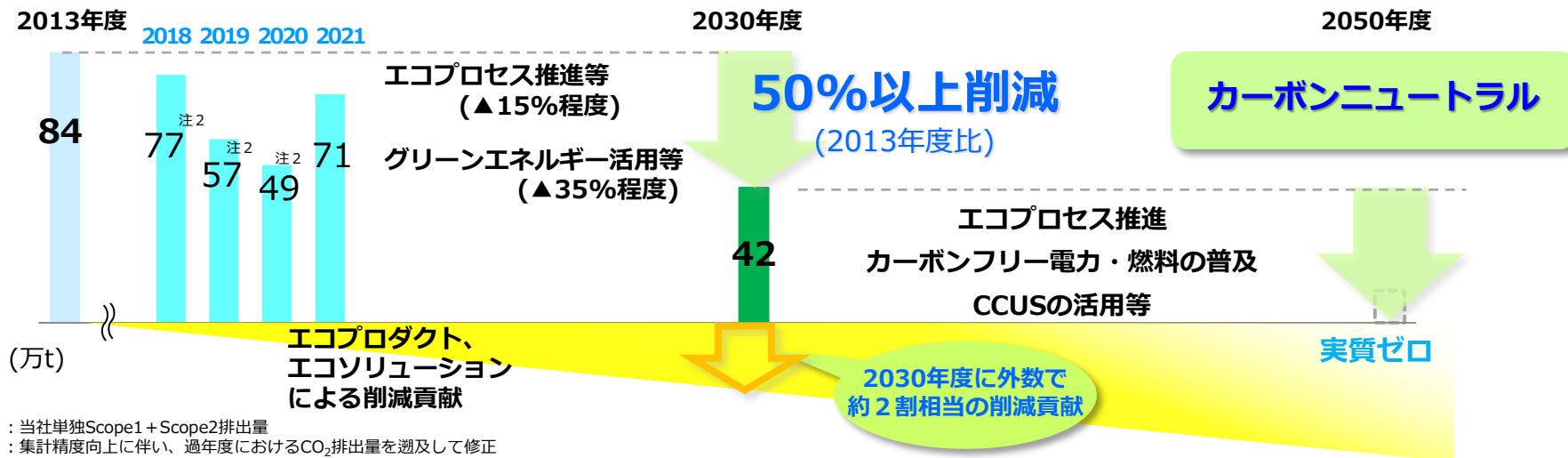
GXリーグとは、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、GX(グリーントランスフォーメーション)への挑戦を行うプレイヤーと共に、経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場として設立されたもの。

当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同。



2050年に向けた当社のロードマップ

【当社CO₂排出量注1】



注1：当社単独Scope1+Scope2排出量

注2：集計精度向上に伴い、過年度におけるCO₂排出量を遡及して修正

注3：各年度の排出量は、契約電力会社の電力排出係数（温室効果ガス排出量算定用）より算出

エコプロセス



- リジエネバーナーを採用した省エネ加熱炉

製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進

グリーンエネルギー活用



カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用

※2022年度から再エネ由来電力の一部活用を開始

エコプロダクト



- 長寿命風力発電用軸受鋼の開発

製品を使用する段階でCO₂排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進

エコソリューション



- 海外グループ会社への技術展開

エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOvako、SSMI等の海外グループ会社に展開

エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

長寿命軸受鋼



耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化



長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上

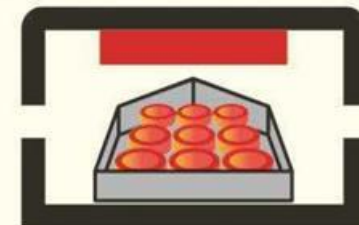


高耐食性化による
ごみ発電高効率化

高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減

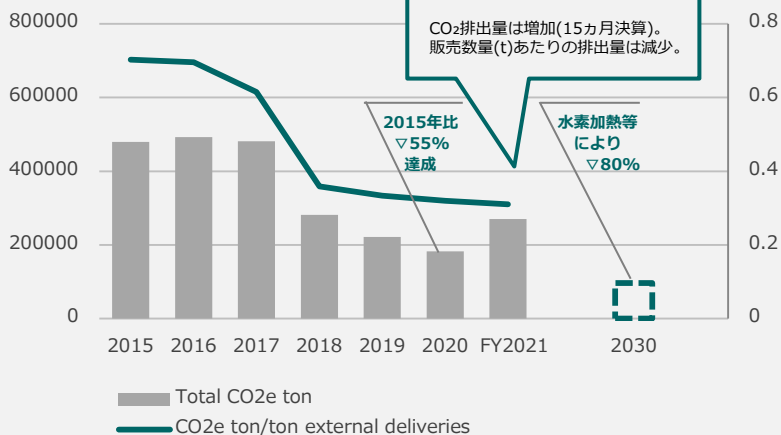


- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

欧州子会社Ovakoの取り組み

Green house gas emissions from operations

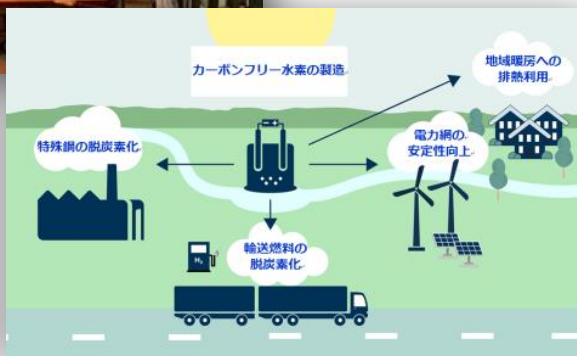
CO₂e/ton Scope 1 and 2 according to GHS Protocoll and ISO14064



2030

- Reduce CO₂ from operations by 80% from 2015 level
- Continue to evolve Our world-leading CO₂ footprint
- Enhanced steel recyclability Driven by Ovako initiative
- Increased number of customer End-products that use our steel for greater CO₂ savings

Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2021をもとに作成



特殊鋼製造プロセスで排出するCO₂を 2015年比55%削減

世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

カーボンフリー水素プラントの建設に着手

2022年1月から
カーボンニュートラルに移行

自社の製造プロセスにおける
CO₂排出を実質ゼロにする、
カーボンニュートラル体制に移行

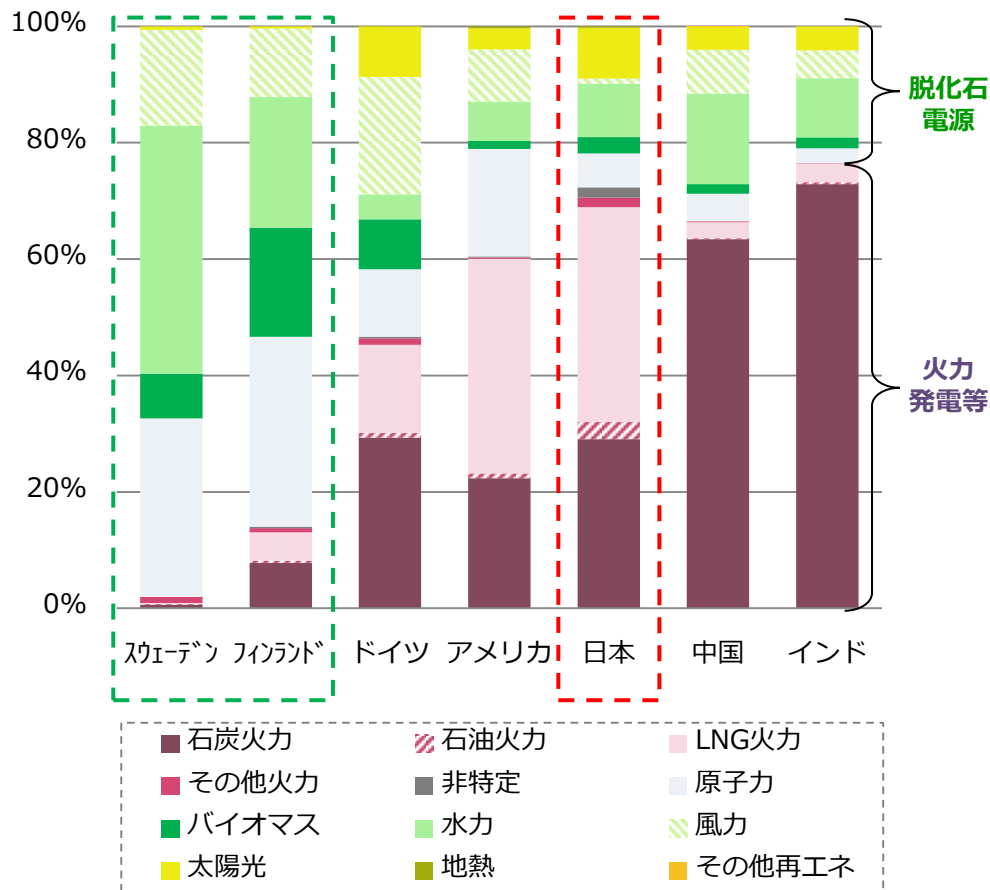
- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量(Scope1 + Scope2)を相殺
- ✓ 気候変動問題への取り組みや投資を促進するため、鋼材価格への気候サーチャージを適用
- ✓ 自社製造プロセスでのCO₂排出削減も引き続き推進

CO₂排出量90%減の軸受生産を達成 (2022/9/8公表)

欧州軸受大手のSKFとともに、標準品に比べCO₂排出量が90%少ない軸受を生産。風力発電機メーカーにOvako材をアピール。ネットゼロカーボンの軸受生産を目指す。

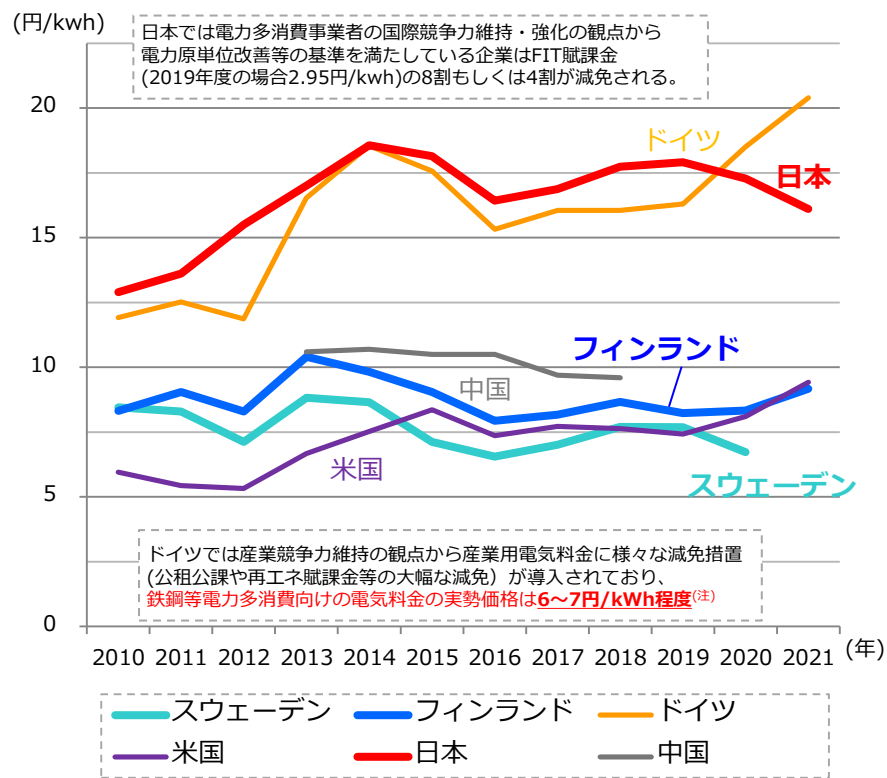
(参考) 各国の電源構成と産業用電力価格

■ 電源構成(2021年)



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

■ 産業用電力価格の推移



※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

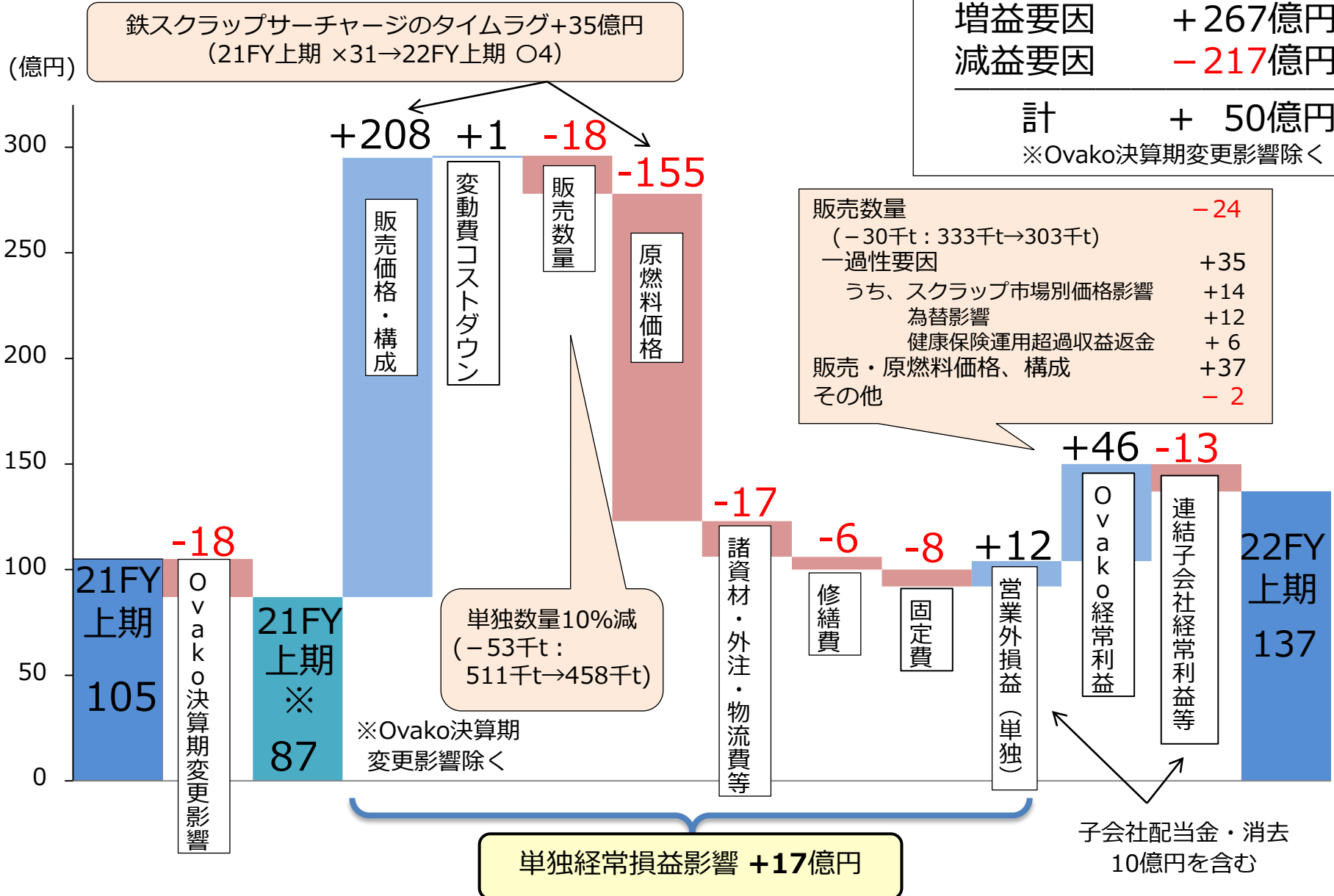
(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い

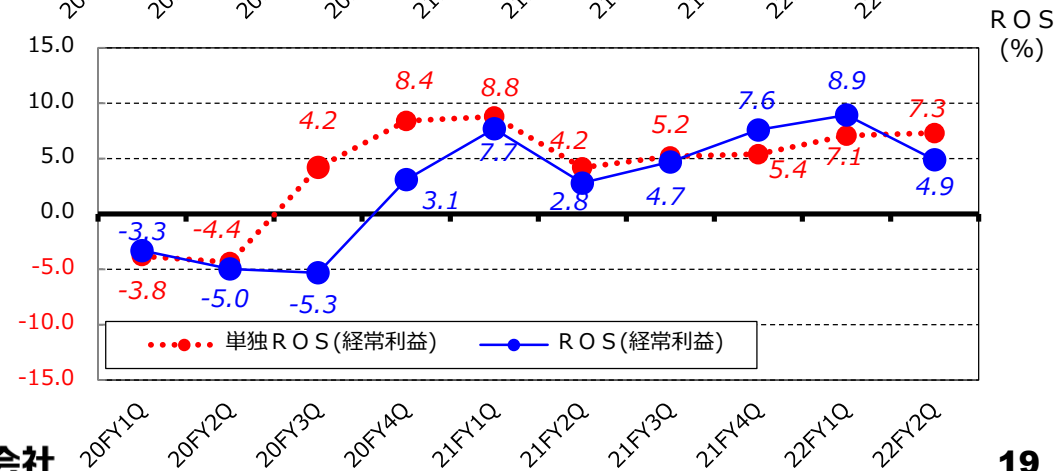
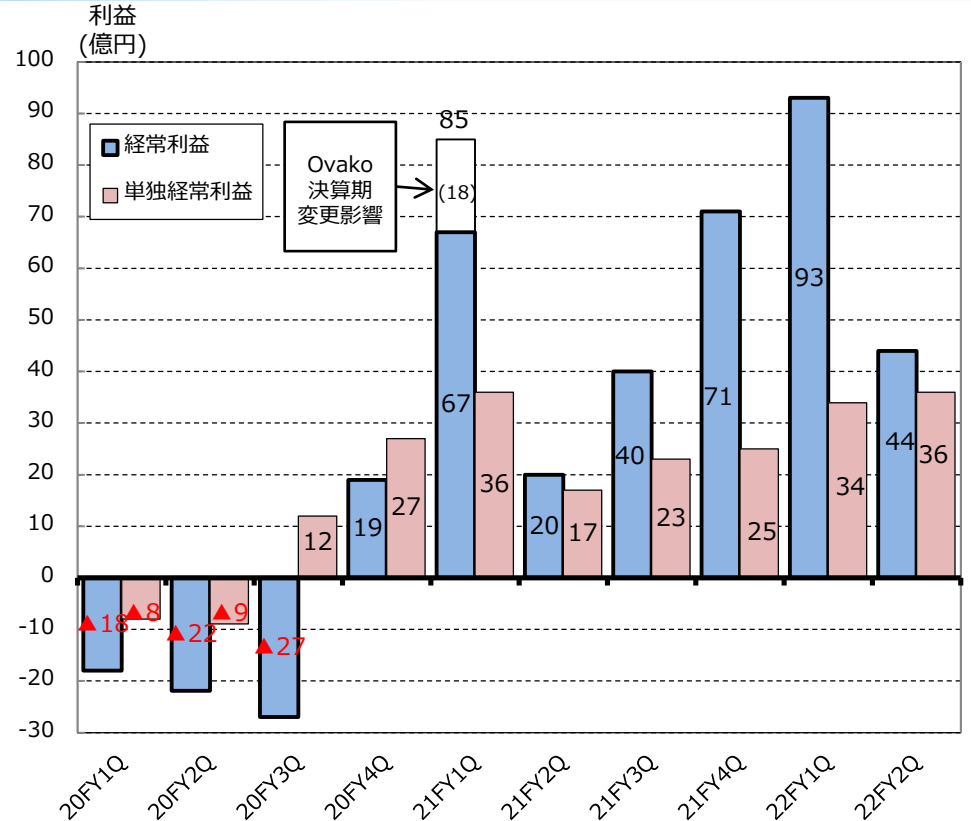
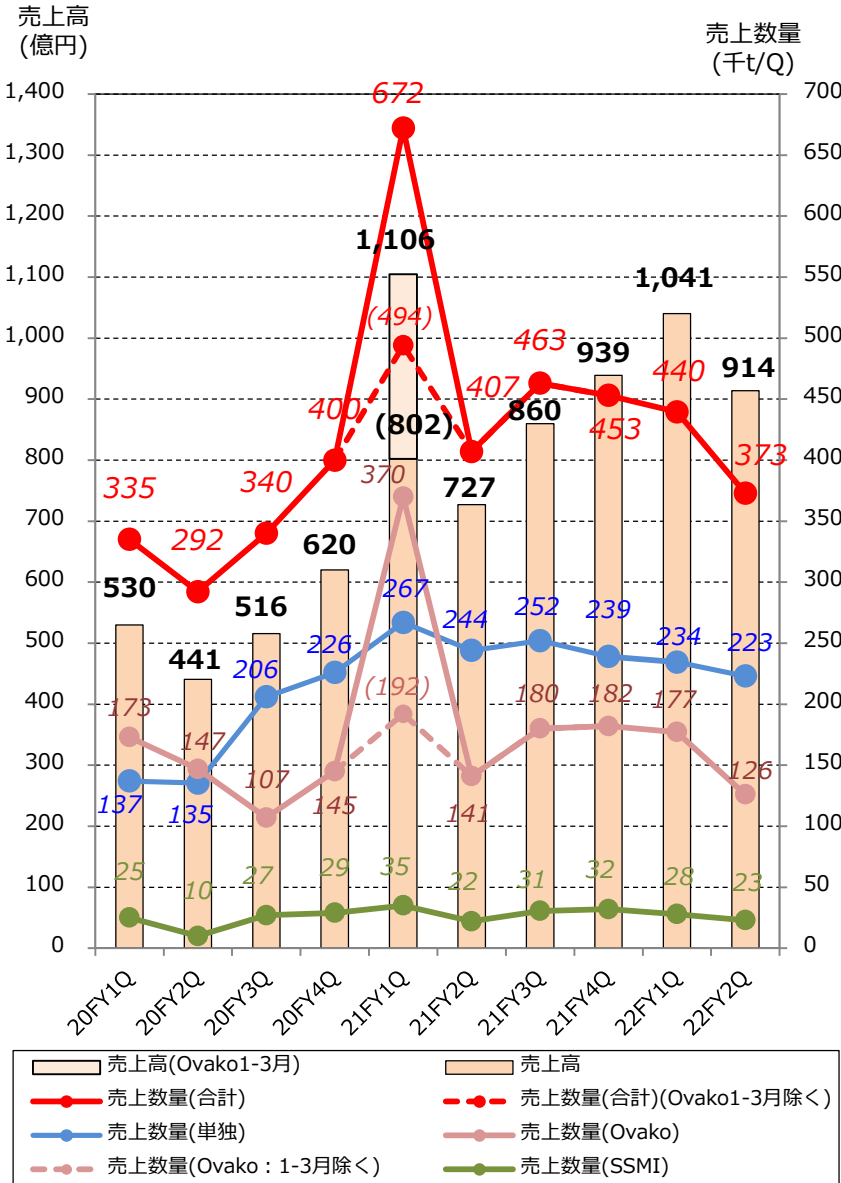
スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度

4. 決算および業績予想の詳細

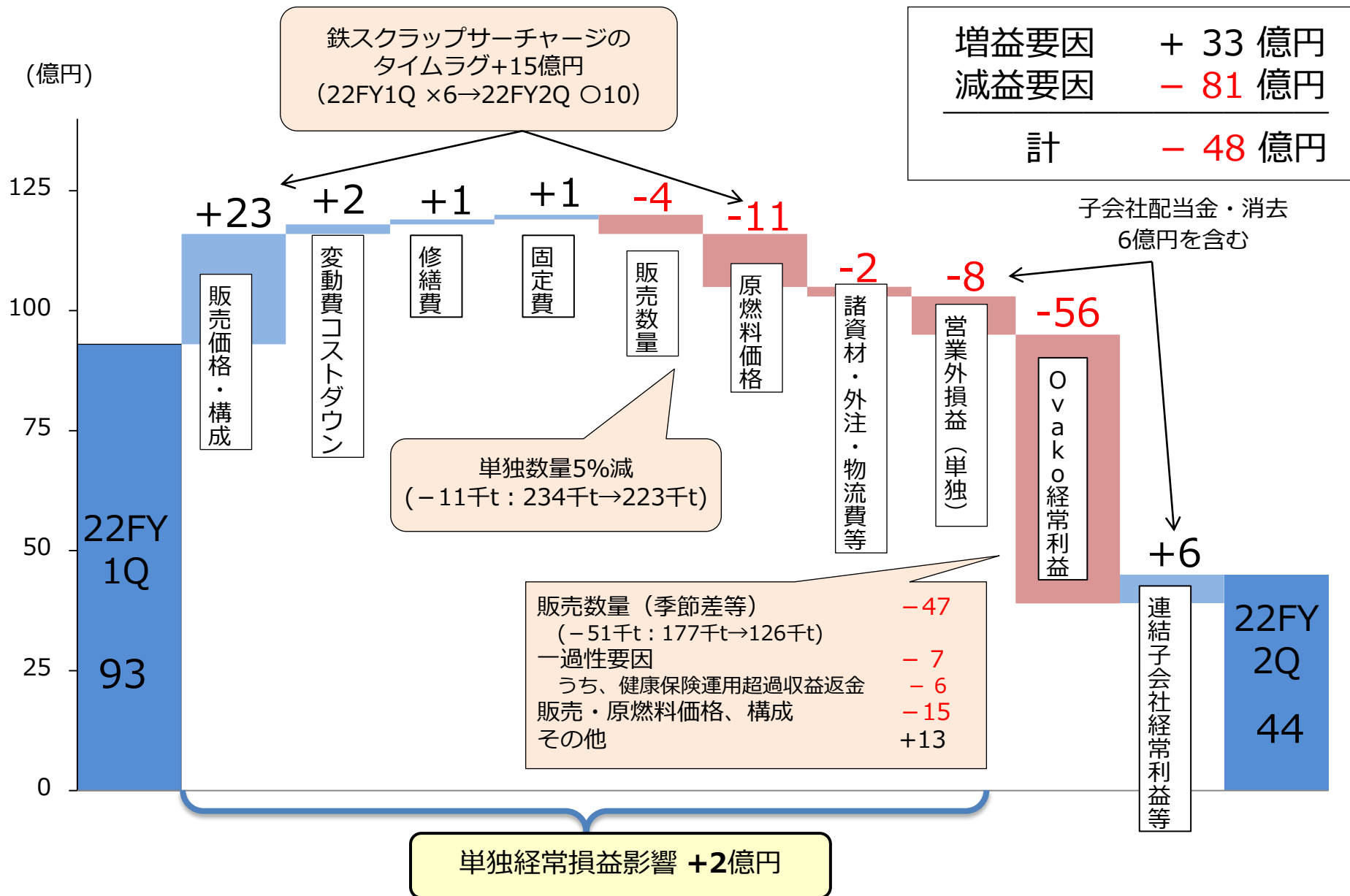
経常利益の変化要因 (2021FY上期→2022FY上期)



業績推移(四半期)



経常利益の変化要因 (2022FY1Q→2022FY2Q)



セグメント別損益

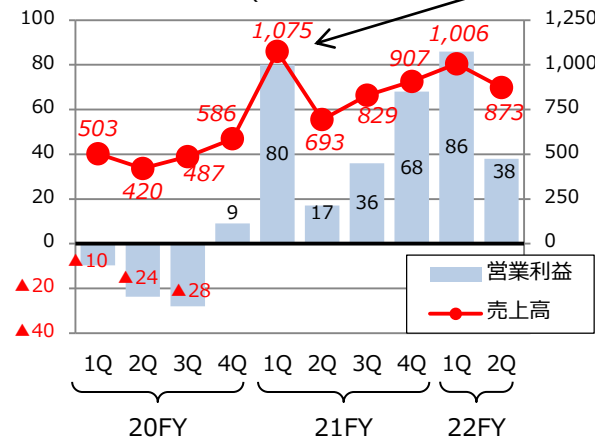
(単位：億円、%)

	2022FY上期(A)			2021FY上期(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	1,879	124	6.6	1,767	98	5.5	+111	+26	+1.1
粉末	26	6	21.8	22	4	17.4	+4	+2	+4.4
素形材	94	2	1.8	89	2	2.3	+5	-0	-0.5
小計	1,999	131	6.6	1,878	104	5.5	+121	+27	+1.1
その他	7	0	1.9	5	▲0	-0.0	+2	+0	+1.9
調整額	▲52	1	-	▲50	0	-	-2	+0	-
連結計	1,954	132	6.7	1,833	104	5.7	+121	+28	+1.0

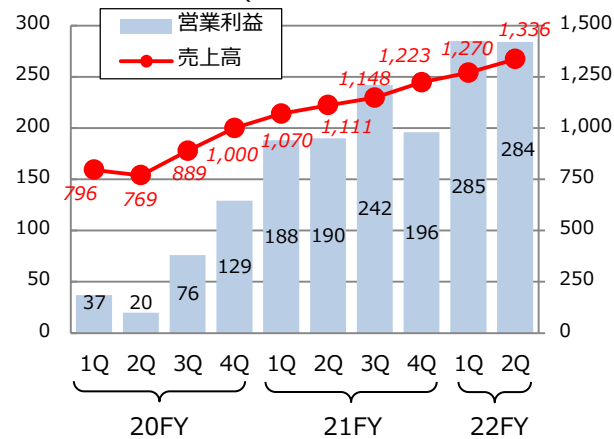
事業別損益推移

鋼材セグメントには
Ovako決算期変更影響を含む

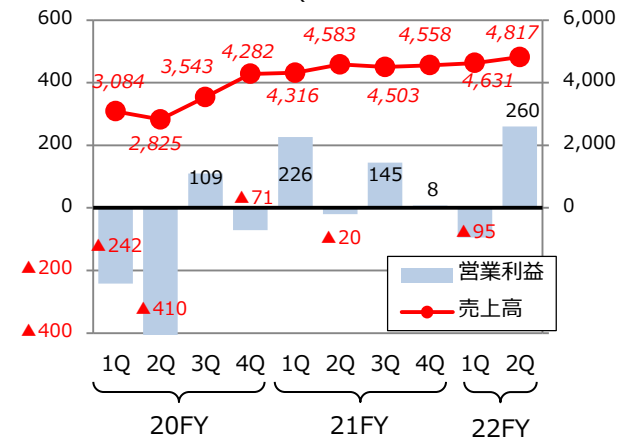
鋼材(単位:億円)



粉末(単位:百万円)



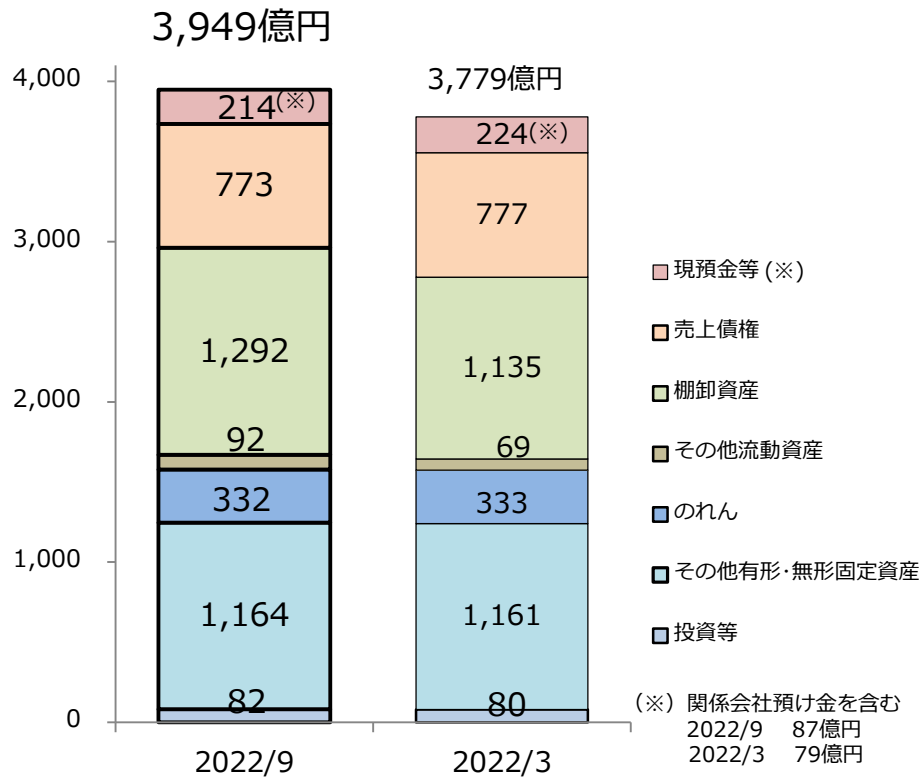
素形材(単位:百万円)



貸借対照表

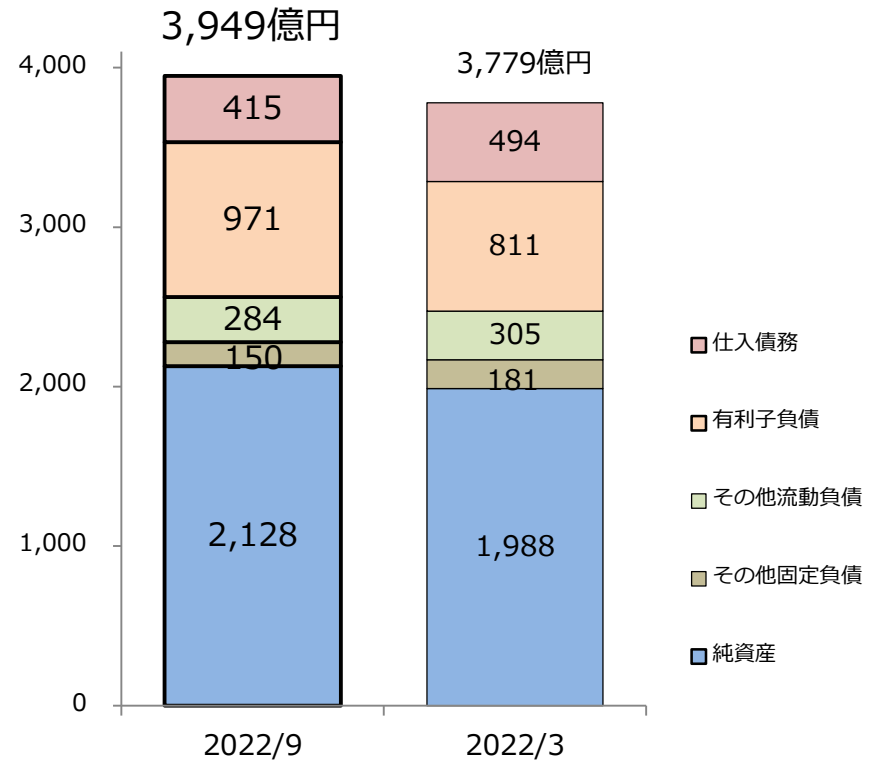
(億円)

資産



(億円)

負債・純資産



資産の主な増減 +170億円 (+4.5%)

棚卸資産 +157億円：原燃料価格の上昇等による増加
のれん -1億円：償却 -14億円、為替影響 +13億円

負債・純資産の主な増減 +170億円 (+4.5%)

仕入債務 -79億円：一部仕入品の支払時期の早期化等による減少
有利子負債 +160億円：運転資金調達に伴う増加
純資産 +140億円：利益剰余金+74億円(税後利益+99億円、配当-25億円)
その他の包括利益累計額 +64億円

(参考)主要各社の総資産額(2022/9末:連結消去前)

当社 2,768億円 Ovako 1,239億円 SSMI 144億円

自己資本比率

2022/9末 53.4%

2022/3末 52.1%

キャッシュ・フロー計算書

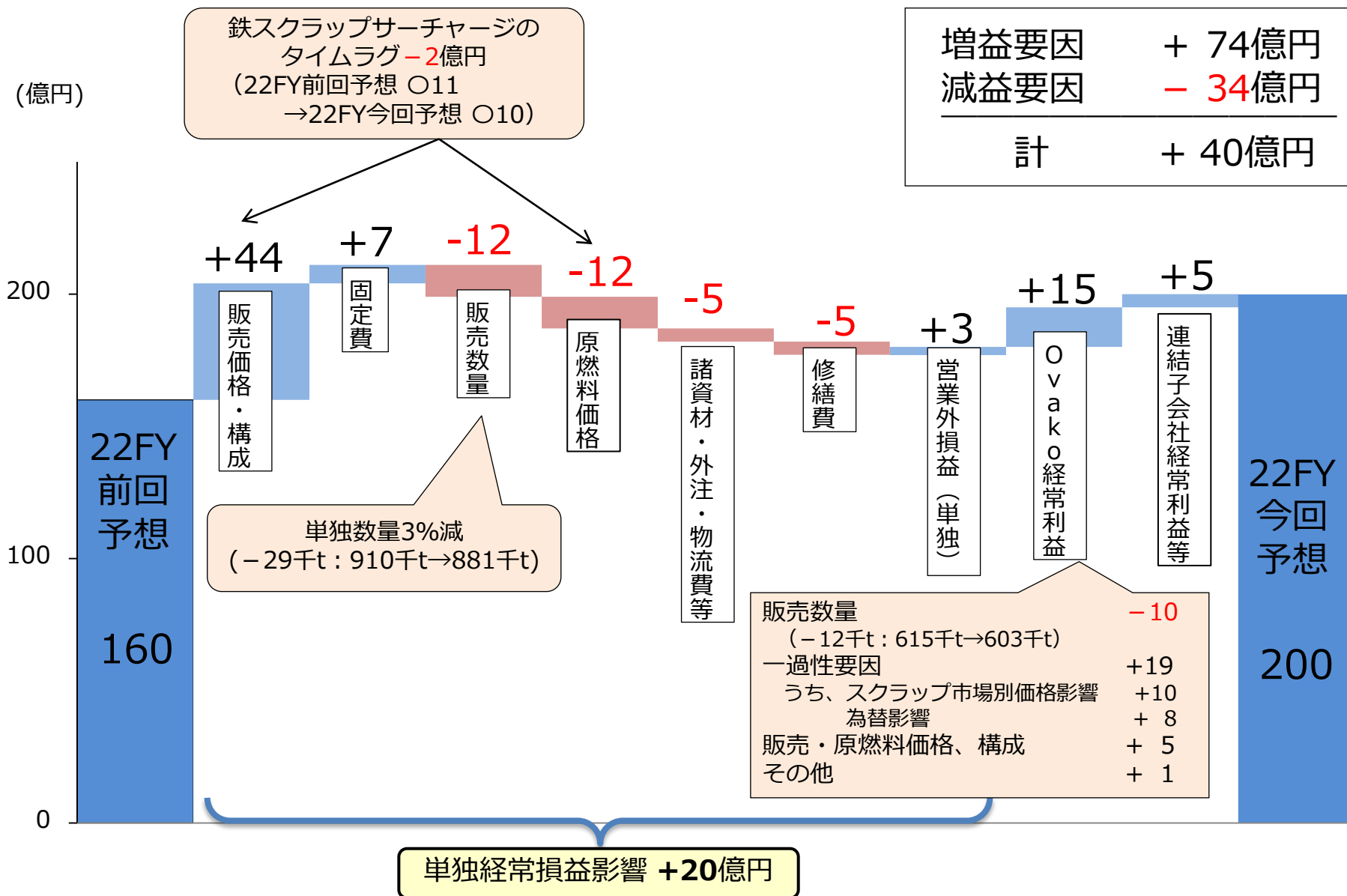
2022FY2Q決算

(億円)

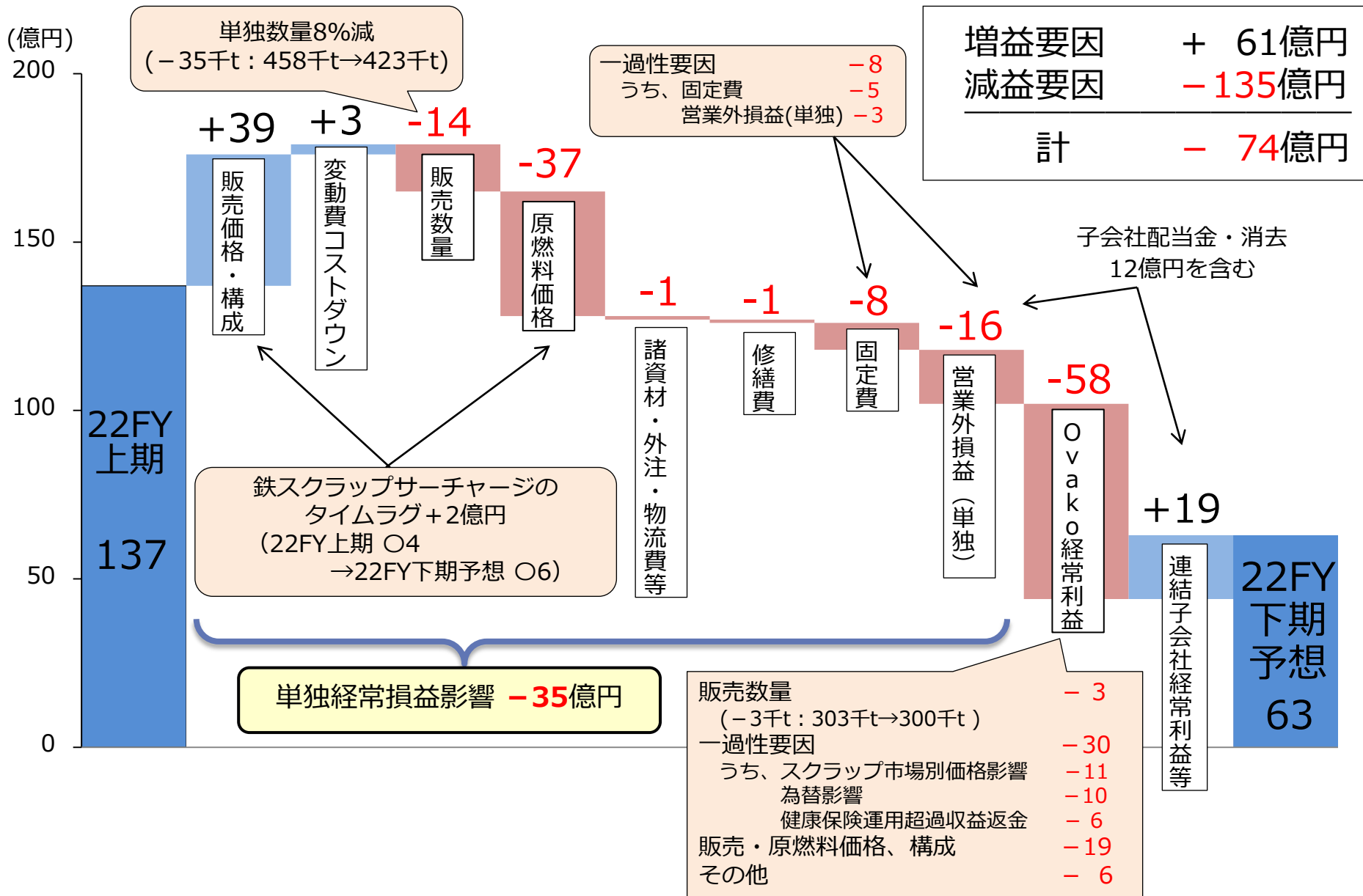
	2020FY上期	2020FY下期	2021FY上期	2021FY下期	2022FY上期
営業活動によるC/F (A)	171	52	2	69	△71
税金等調整前当期純利益	40	72	213	190	221
EBITDA (簡便計算)	△41	△54	105	105	138
減価償却費・のれん償却額	81	126	108	85	83
法人税等の支払または還付	13	△0	△3	△1	△50
運転資金等	118	△20	△207	△120	△242
投資活動によるC/F (B)	△141	△53	△87	△46	△66
設備支出	△139	△50	△87	△50	△63
株式売却収入	-	3	6	-	-
その他	△2	△6	△6	4	△4
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	30	△1	△85	23	△137
財務活動によるC/F (C)	18	△73	22	1	115
借入金・社債・CP・リース債務の増減	18	△73	22	25	140
配当金の支払	△0	△0	△0	△24	△25
その他	△0	△0	△0	△0	△0
換算差額 (D)	△4	6	3	6	12
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	44	△68	△60	30	△11

(注)キャッシュには関係会社預け金含む

経常利益の変化要因 (2022FY前回予想→2022FY今回予想)



経常利益の変化要因 (2022FY上期→2022FY下期今回予想)



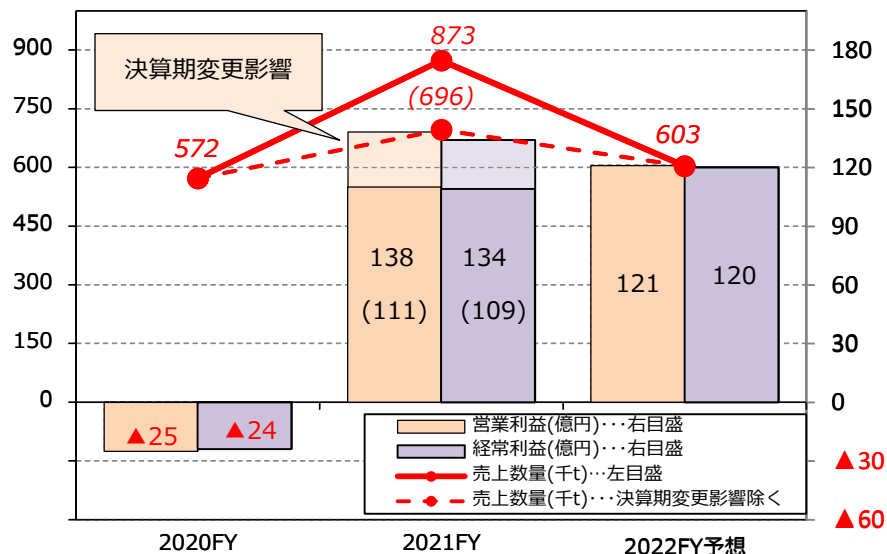
Ovakoの状況

2022FY見通し

2022FY：経常利益120億円（2021FY比-14億円 決算期変更影響を除くと+11億円）

- ・ 上期は数量減をマージン改善でカバー、一過性要因もあり。
下期はウクライナ侵攻の長期化に伴う需要減退リスクを見込む。
- ・ 2022年4月1日からエネルギーサーチャージを導入。
エネルギー価格の高騰に対しては**エネルギーサーチャージの適用**によりマージン確保を目指す。
- ・ 2022年1月にCN体制へ移行。**気候サーチャージの適用**に加え、CNであることの強みを活かし、
需要減退時においても販売数量の確保を目指す。
- ・ 足元の急激なコストインフレを踏まえ、来年以降に向けた**インフレ対応等値上げ**に取り組む。
- ・ 生産構造最適化の着実な実行を通じ、引き続き固定費のコントロールを徹底。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化の取り組みと3社連携

- ・ 収益力の強化
 - ▶ ベース値上げ、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
 - ▶ ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
 - ▶ 変動費の削減、固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る
- ・ 3社連携によるシナジー効果の発揮
 - ① 拡販活動の推進
 - ② 操業支援によるコスト削減
 - ③ 調達コストの削減

SSMIの状況

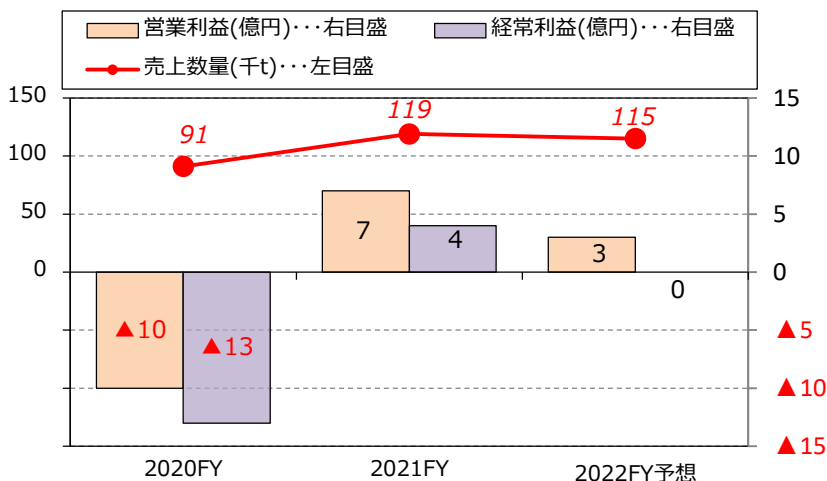
2022FY見通し

2022FY:経常利益0億円(2021FY比-4億円)

原燃料価格上昇の影響見込むも、

- ・ 販売価格の値上げによるマージン改善、高収益分野の販売拡大による構成改善に加え、
- ・ 原単位低減に優れた新加熱炉(リジェネバーナー採用)の活用、生産性と品質優位性に優れた連続圧延機の活用拡大等、生産最適化によるコスト削減施策を進め、経常黒字を目指す。

売上数量、営業利益、経常利益推移



少数株主であるMahindra and Mahindra Limitedと締結していた商標ライセンス協約の期限を迎えたため、2022年6月23日付でMahindra Sanyo Special Steel Private Limited(MSSS)からSanyo Special Steel Manufacturing India Private Limited(SSMI)に商号変更いたしました。

収益確保に向けた取り組み

- ・ 営業基盤・営業体制の強化
 高浄度技術を生かした営業戦略策定、
 拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
- ・ 変動費の削減
 エネルギー原単位改善や安価原料の有効活用による操業コスト・調達コストの削減
- ・ 固定費の抑制



当社のブランド力の礎である
 高浄度鋼のグローバル対応を強化し、
 成長市場であるインドでの確固たるポジションを築く

5. トピックス

トピックス

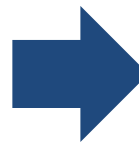
ESG

(1)国内鉄鋼メーカーで初めて「TPG認証」を取得（2022年9月26日）

- ・ 風力発電 重要部品用鋼材のサプライヤーとして「TPG認証」を取得。
- ・ 連続鋳造法(高い生産性で特殊鋼を製造可能)と、大径鋼材(風力発電機用の大型ベアリング等に使用)の製造が可能な造塊法双方で認証を受けたのは当社が世界初。
- ・ 当社は、今後もカーボンニュートラル社会の早期実現に貢献。



信頼性の高い製造技術
およびその品質管理体制
⇒高浄度鋼を安定的に製造



国内鉄鋼メーカー初
「TPG認証」取得

TPG (Transportation & Power Generation) 認証とは

- ・ 輸送および発電関連の製品の製造に関して、鉄鋼製造・熱処理・非破壊試験などの認証分野ごとに規定されるTPG要求事項を満たしていることを証明する米国の認証制度。
- ・ 一部の風力発電機メーカーが、サプライヤーに対するTPG認証取得の義務付けを決定している。

トピックス

ESG

(2) 産学連携講義を開催 ～九州大学鉄鋼リサーチセンターとの技術交流会～ (2022年8月30日～9月2日)

- ・ 大学院生を対象とした産学連携講義を当社にて開催。
- ・ 当社社員による特殊鋼関連の講義や工場・研究設備見学、実習および報告会を実施。
- ・ 4日間のプログラムに大学院生6名が参加し、特殊鋼についての理解を深めた。



その他

(3) 第4回関西次世代3Dプリンタ展へ出展 (2022年10月5日～10月7日)

【当社出展内容】

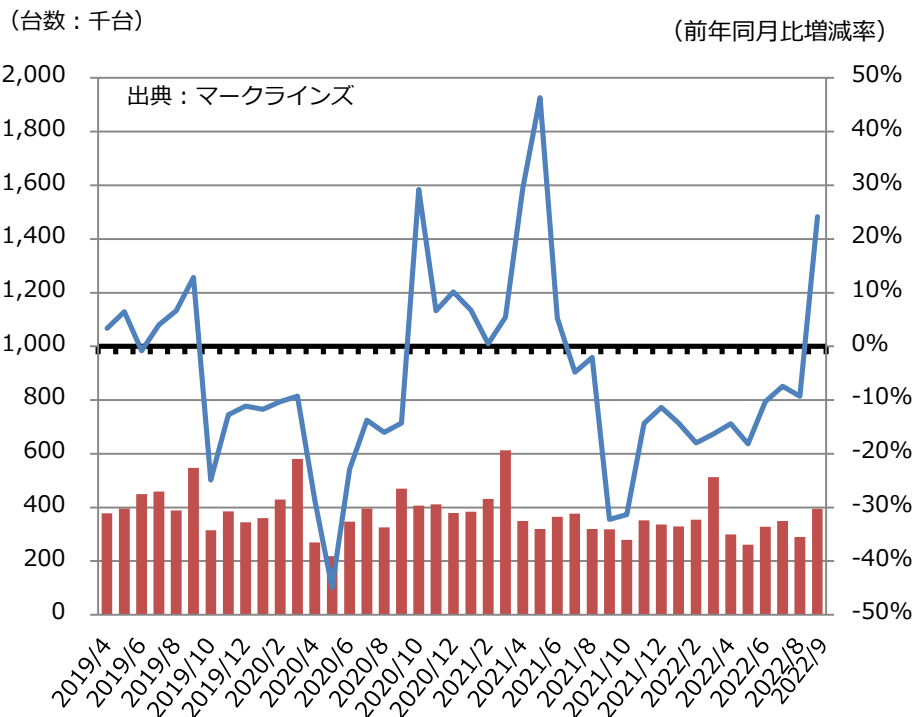
- ・ 3Dプリンター用高機能金属粉末
「NOVASHAPE®シリーズ」
 - ・ 磁性金属粉末
 - ・ 高真球ディスクアトマイズ金属粉末など
- ※展示会では新型コロナウイルス感染防止対策を実施。



6. 參考資料

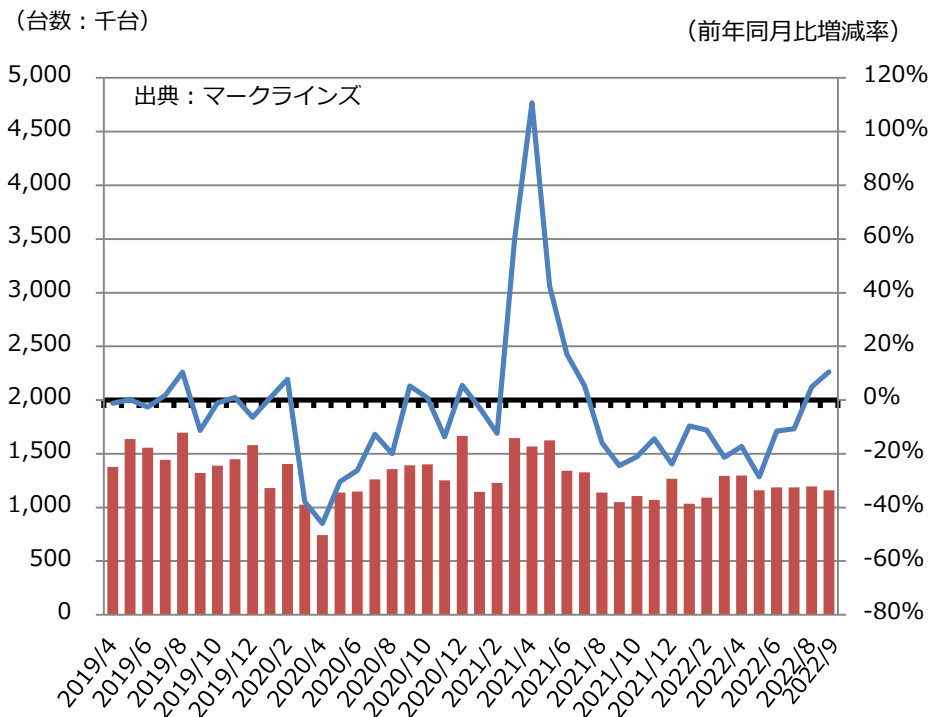
自動車市場の動向

日本自動車販売台数



- ・ 2020/5を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/5 : 前年同月比 +46.3% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2022/9 : 前年同月比 +24.2%

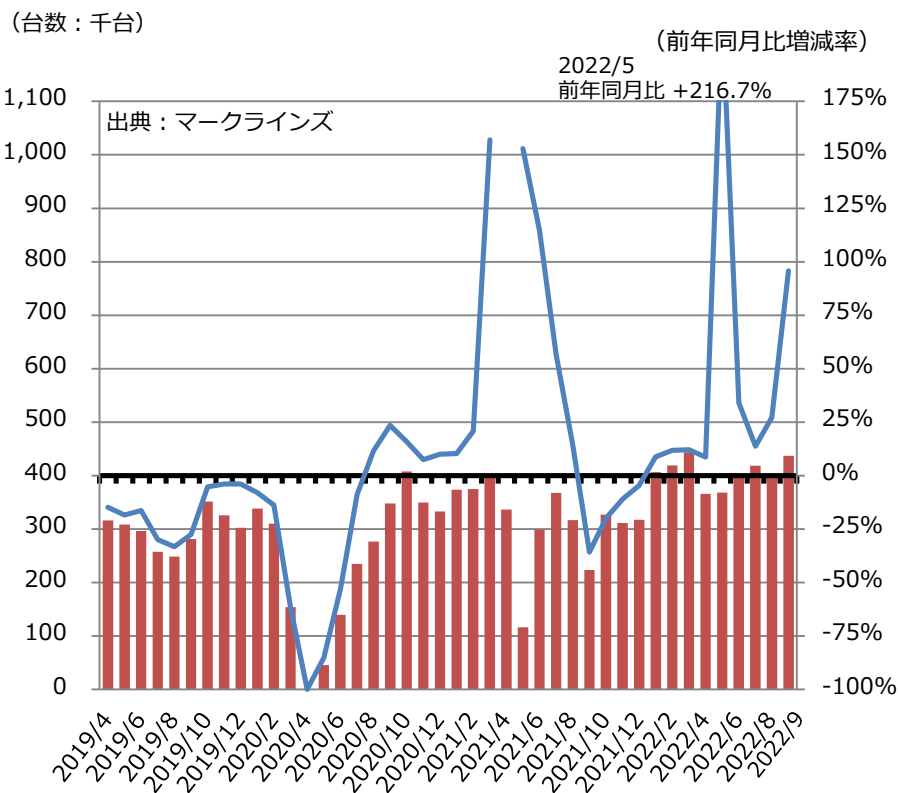
米国自動車販売台数



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +108.6% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2022/9 : 前年同月比 +10.5%

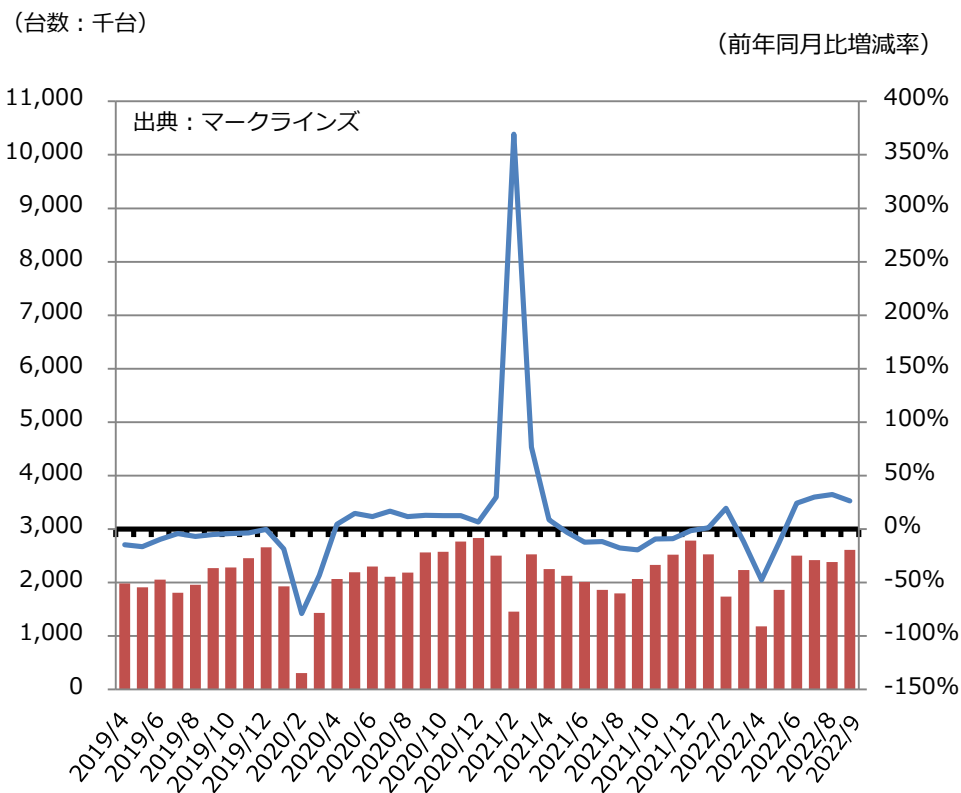
自動車市場の動向

インド自動車販売台数



- ・2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/5：新型コロナウイルス再拡大影響により一時的に落込みがあったもののその後回復傾向
- ・2022/9：前年同月比 +95.8%

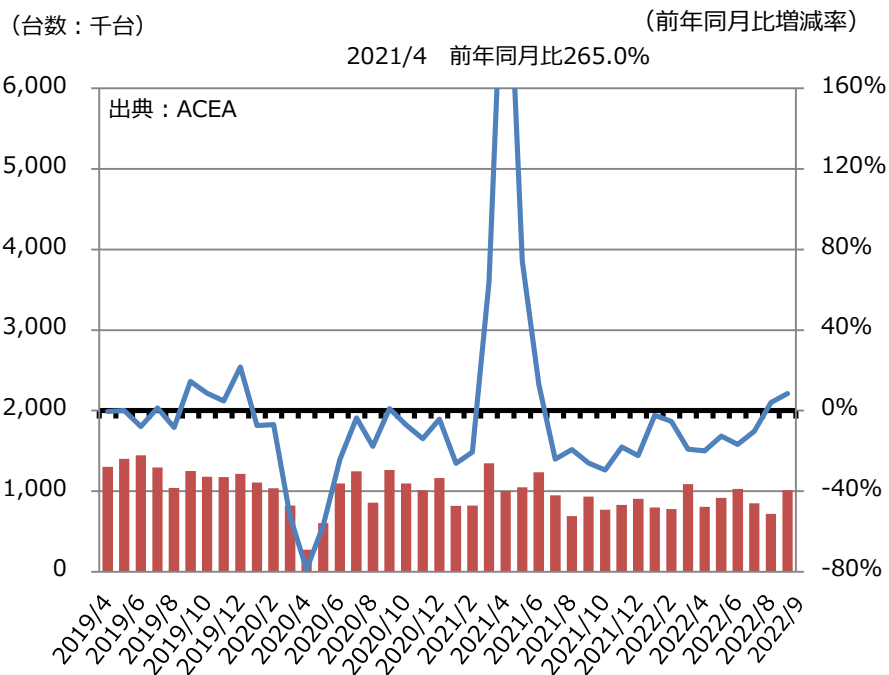
中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)



- ・2020/2を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/6：世界的な半導体不足による自動車生産減少影響で前年同月比 -12.4%
- ・2022/4：新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で -47.6%
- ・2022/9：前年同月比 +26.3%

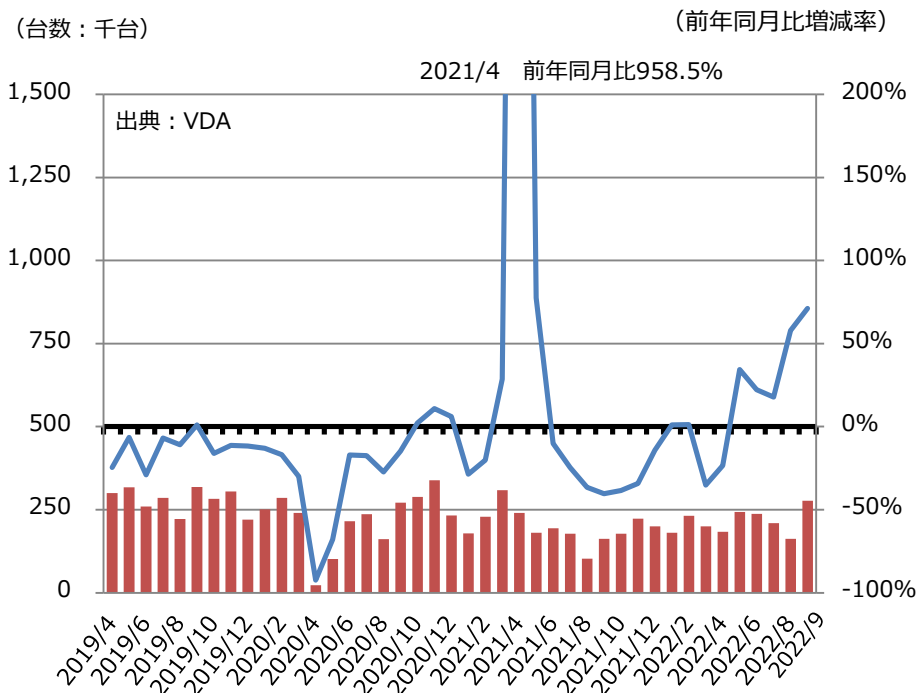
自動車市場の動向

欧州自動車販売台数



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +265.0%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2022/9 : 前年同月比 +8.5%

ドイツ自動車輸出台数



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +958.5%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2022/9 : 前年同月比 +71.1%

産業機械・建設機械市場の動向

工作機械受注金額（日本）

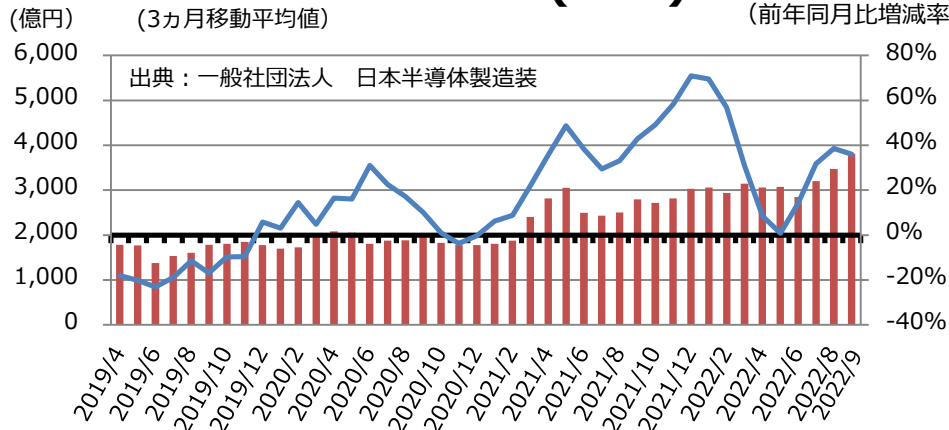
(前年同月比増減率)



半導体製造装置販売金額(日本)

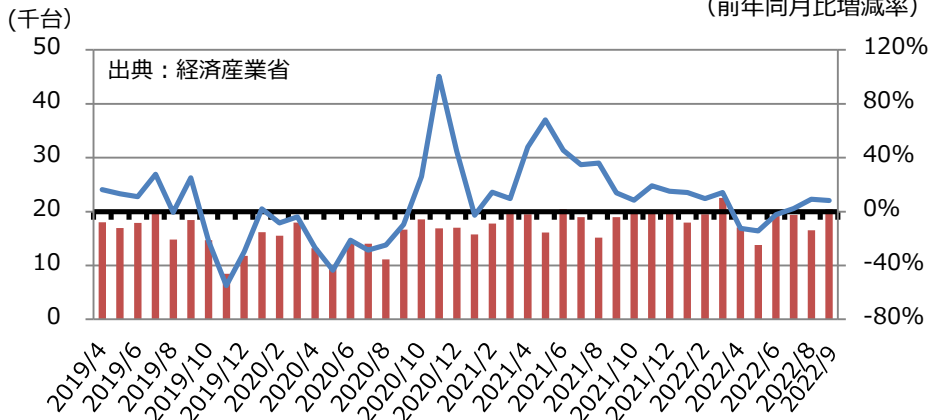
(3カ月移動平均値)

(前年同月比増減率)



シヨベル系建設機械国内生産台数

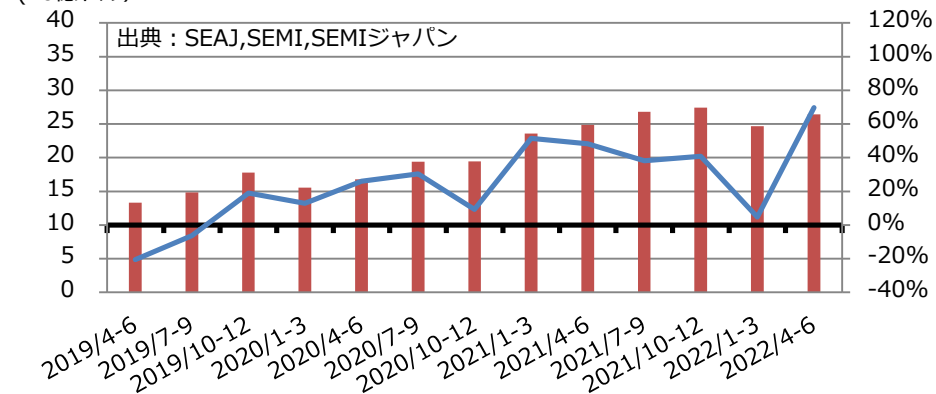
(前年同月比増減率)



半導体製造装置販売金額(世界)

(10億ドル)

(前年同月比増減率)

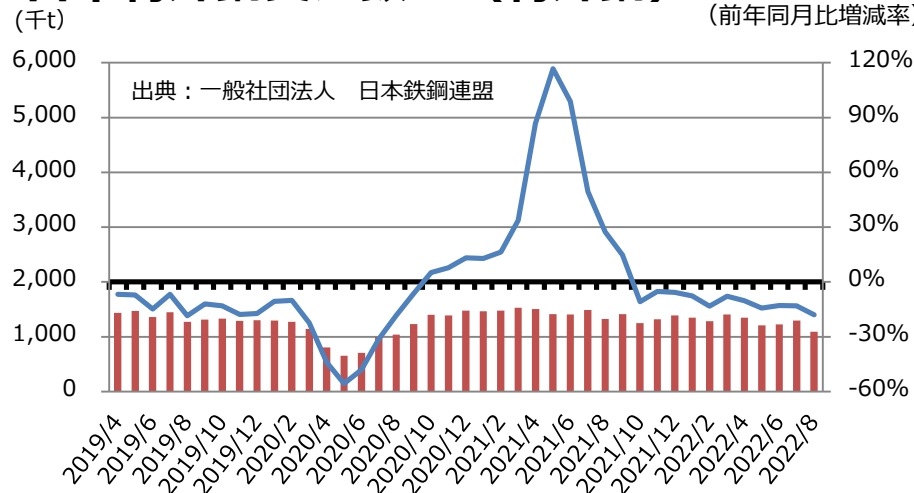


工作機械 : 新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同+4.3%
半導体製造装置 : 2020/7以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向
 2020/12以降は、5G普及による需要増、世界的な供給不足に伴うメーカーの増産投資意欲の高まりで回復
 2022/9は前年同月比+36.1%
建設機械 : 2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同月比でマイナス推移
 2020/10以降は中国や欧米での需要回復と前年の反動で前年同月比プラス
 2022/9は前年同月比+8.1%

特殊鋼需要の動向

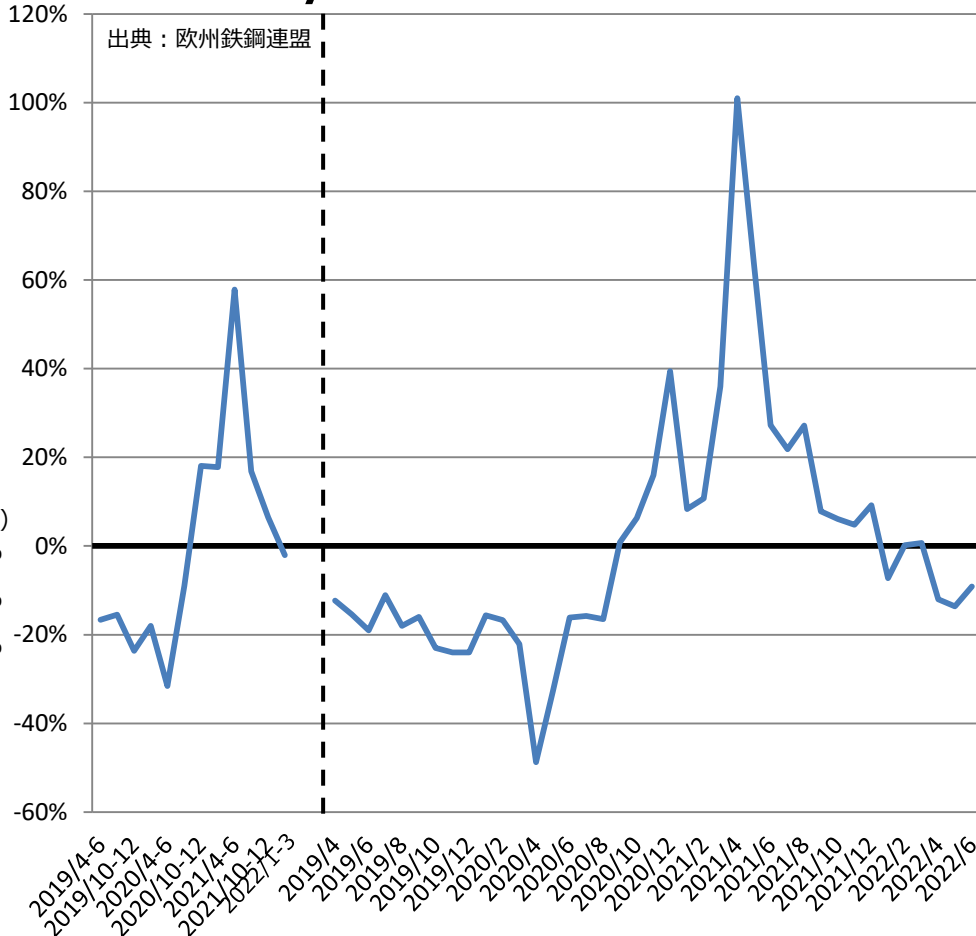
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



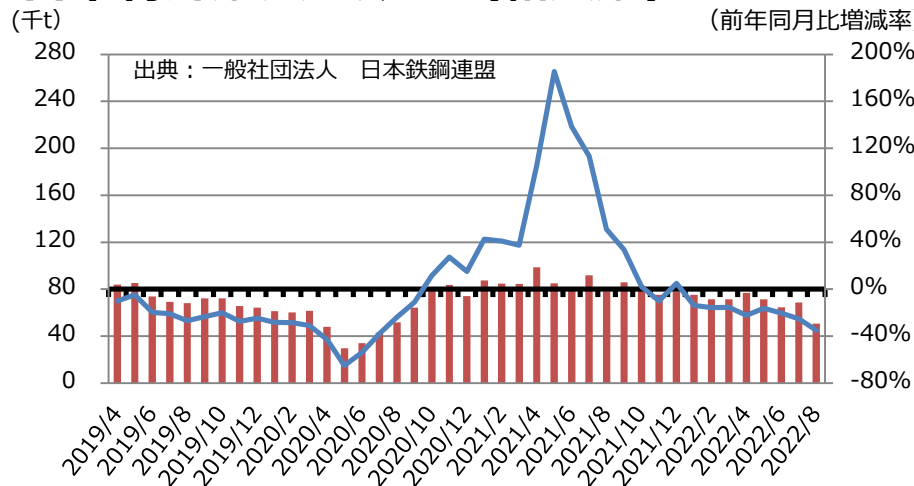
欧州デリバリー数量 棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

(前年同月比増減率)



日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）

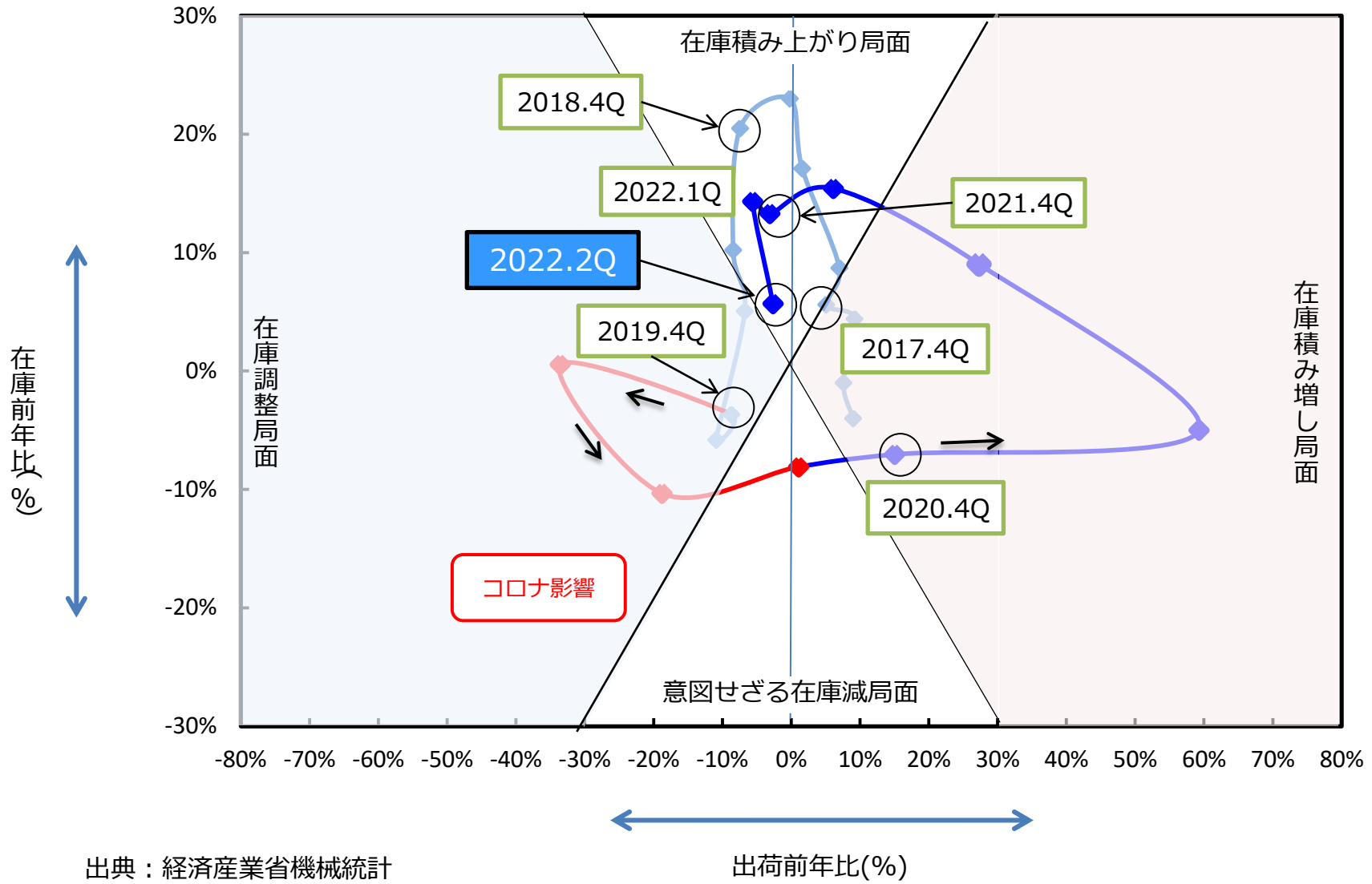
(前年同月比増減率)



軸受鋼は、2020/5を底に新型コロナウイルス影響から回復
足元、自動車減産、在庫調整影響が現出
2022/8は前年同月比 - 35.0%

欧州デリバリー数量は2020/4に底打ち
2021/4は前年同期大幅減の反動で前年同月比 +101.0%
2022/6は前年同期比で -9.2%

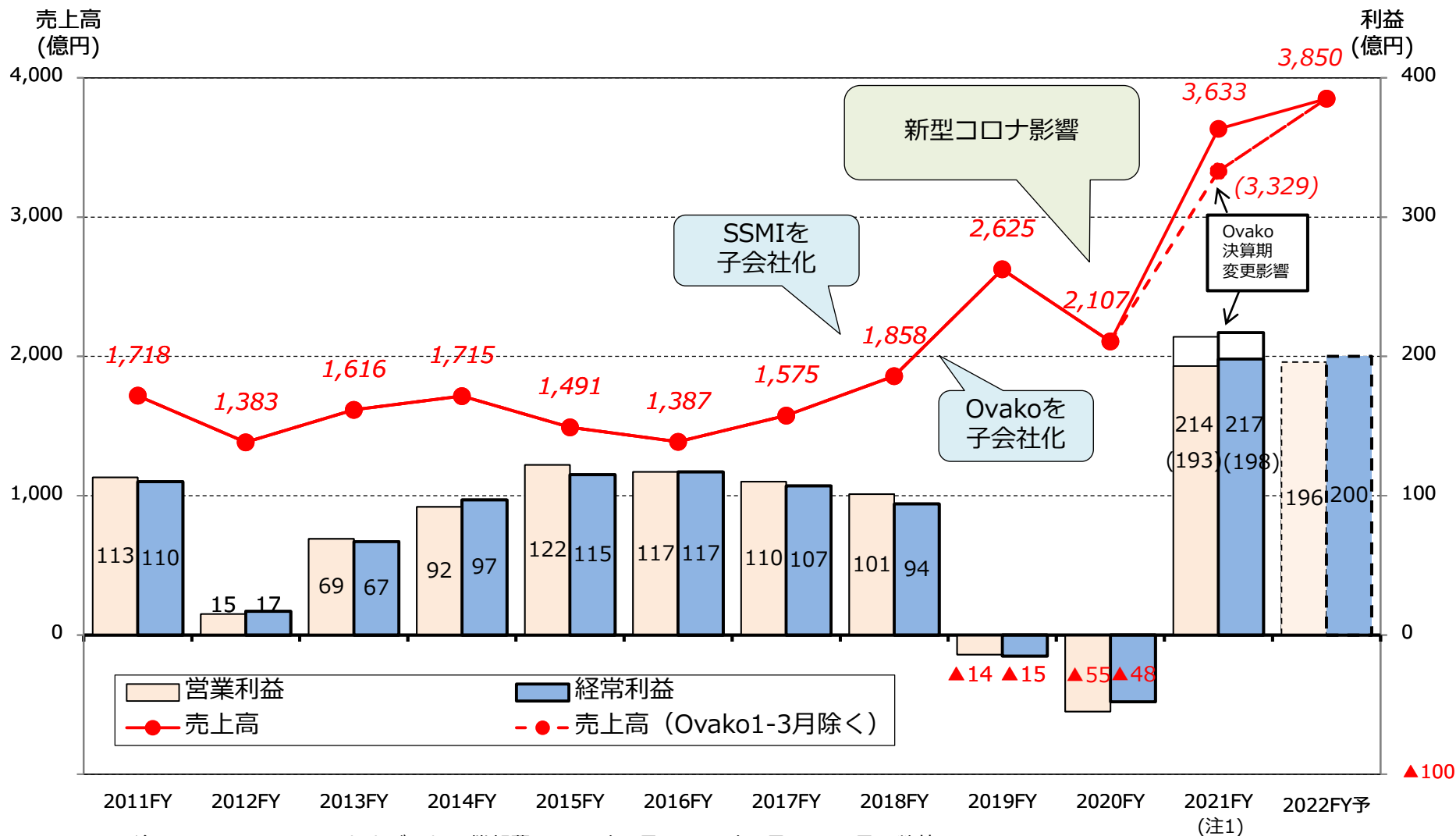
軸受在庫循環図



出典：経済産業省機械統計

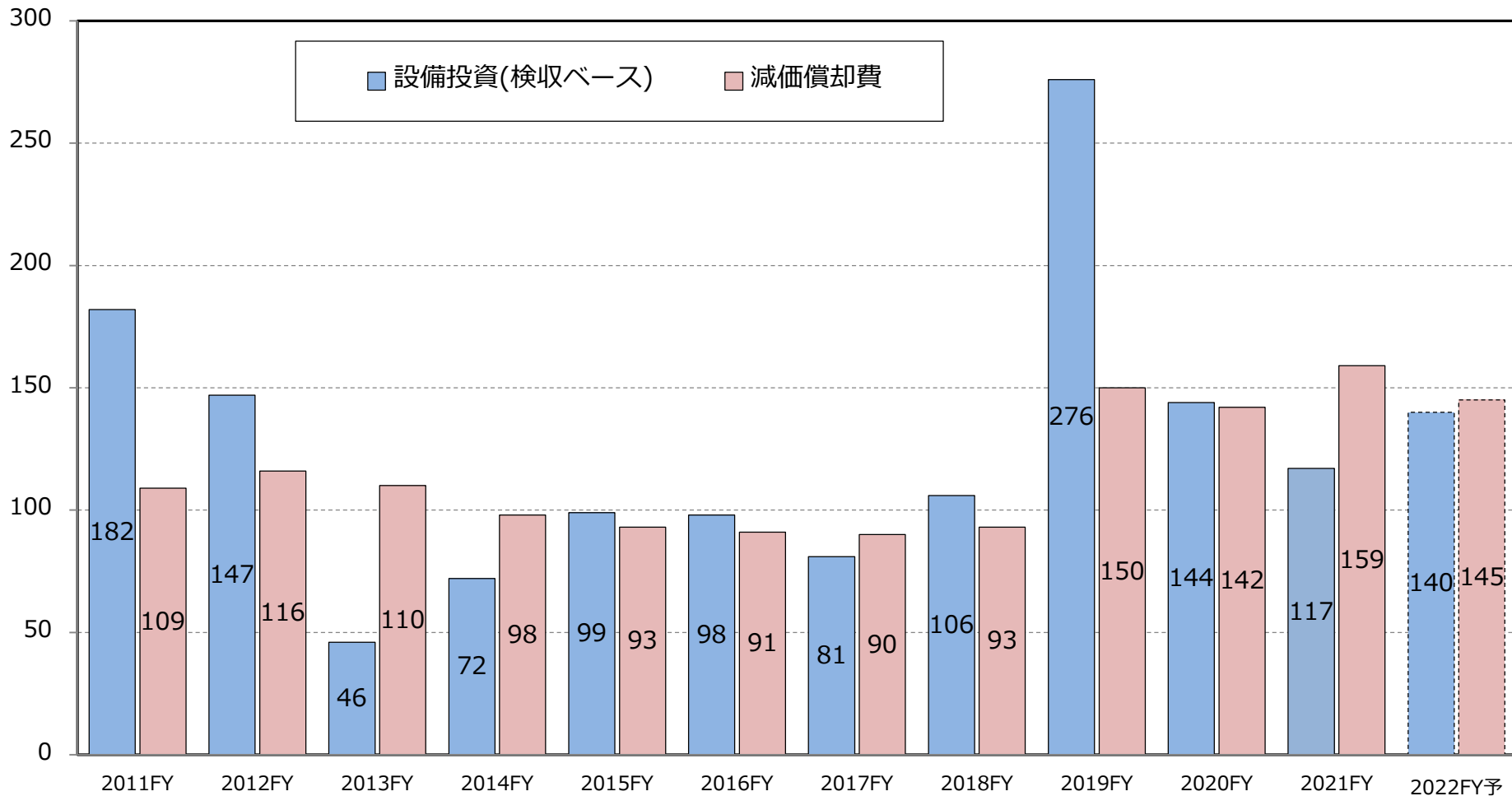
出荷前年比(%)

業績推移(年度)

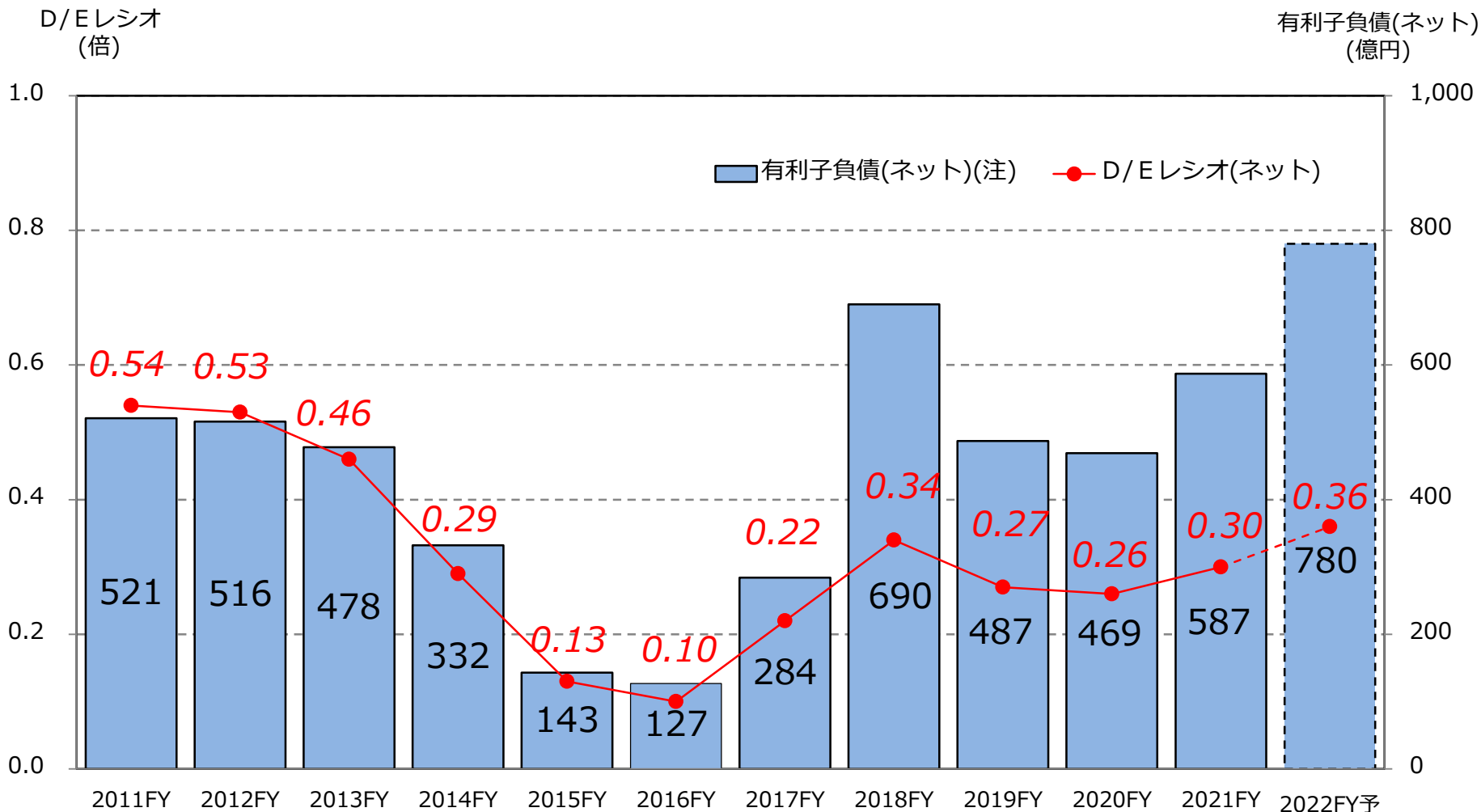


設備投資・減価償却費の推移

(億円)



D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

損益の詳細 (業績予想 2022/10/31公表) 対前回予想

(単位: 千t、億円、円/株、%)

	22FY上期 実績(A)	22FY下期 予想(B)	2022FY予想 (C) = (A)+(B)	22FY上期 前回予想(D)	22FY下期 前回予想(E)	2022FY 前回予想(F)	増減 (C)-(F)
売上数量	812	787	1,599	816	824	1,640	-41
内、当社単独	458	423	881	460	450	910	-29
内、Ovako	303	300	603	305	310	615	-12
内、SSMI	51	64	115	51	64	115	-
売上高	1,954	1,896	3,850	1,915	1,915	3,830	+20
内、当社単独	965	925	1,890	945	935	1,880	+10
内、Ovako	857	773	1,630	835	785	1,620	+10
内、SSMI	99	143	242	99	146	245	-3
営業利益	132	64	196	95	60	155	+41
内、当社単独	53	35	88	35	35	70	+18
内、Ovako	88	33	121	69	35	104	+17
内、SSMI	▲1	4	4	▲2	5	3	+1
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	▲14	▲14	▲29	-
経常利益	137	63	200	100	60	160	+40
内、当社単独	70	35	105	50	35	85	+20
内、Ovako	89	31	120	70	35	105	+15
内、SSMI	▲2	2	0	▲3	3	0	-
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	▲14	▲14	▲29	-
税後利益(注2)	99	47	146	70	45	115	+31
1株当たり税後利益	181.2		268.0	128.5		211.1	+56.9
のれん償却費を除く営業利益	146	78	225	109	75	184	+41
のれん償却費を除く経常利益	152	77	229	114	75	189	+40
のれん償却費を除く税後利益	113	62	175	84	60	144	+31
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	207.5		321.2	154.2		264.3	+56.9

(注1) SSMI: 1月~12月の数値

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

損益の詳細 (業績予想 2022/10/31公表) 対前年度

(単位: 千t、億円、円/株、%)

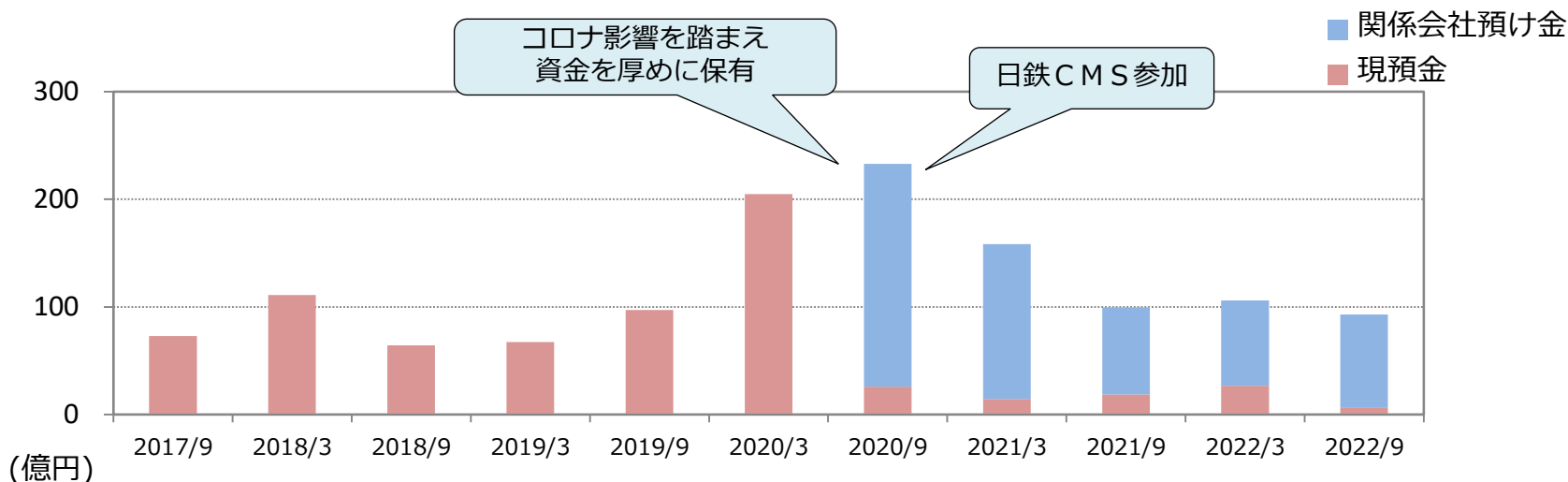
	22FY上期 実績(A)	22FY下期 予想(B)	2022FY予想 (C)=(A)+(B)	21FY上期 (D)	21FY下期 (E)	2021FY (F)=(D)+(E)	増減 (C)-(F)
売上数量	812	787	1,599	1,079	916	1,995	-396
内、当社単独	458	423	881	511	491	1,002	-121
内、Ovako	303	300	603	511	363	873	-270
内、SSMI	51	64	115	57	62	119	-4
売上高	1,954	1,896	3,850	1,833	1,800	3,633	+217
内、当社単独	965	925	1,890	796	892	1,688	+202
内、Ovako	857	773	1,630	930	780	1,709	-79
内、SSMI	99	143	242	77	97	173	+69
営業利益	132	64	196	104	110	214	-18
内、当社単独	53	35	88	48	43	92	-4
内、Ovako	88	33	121	70	68	138	-17
内、SSMI	▲1	4	4	3	4	7	-3
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	▲20	▲14	▲34	+5
経常利益	137	63	200	105	112	217	-17
内、当社単独	70	35	105	52	47	99	+6
内、Ovako	89	31	120	68	66	134	-14
内、SSMI	▲2	2	0	2	2	4	-4
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	▲20	▲14	▲34	+5
税後利益(注3)	99	47	146	73	80	153	-7
1株当たり税後利益	181.2		268.0	133.8		280.2	-12.2
のれん償却費を除く営業利益	146	78	225	124	124	248	-23
のれん償却費を除く経常利益	152	77	229	125	125	250	-21
のれん償却費を除く税後利益	113	62	175	93	93	186	-11
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	207.5		321.2	170.8		342.1	-21.0

(注1) Ovakoおよびのれん償却費: 2022FY予想は2022年4月~2023年3月の12ヵ月の数値、2021FYは2021年1月~2022年3月の15ヵ月の数値(21FY上期は1月~9月の9ヵ月、21FY下期は10月~2022年3月の6ヵ月の数値) (注2) SSMI: 1月~12月の数値 (注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

関係会社預け金について

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み（資金のセーフティネットとして機能）。
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、**従来の現預金という性質には変わらない。**

関係会社預け金を含む現預金等の推移（単独）



未来への信頼を担う

当社の掲げる「信頼の経営」は地球環境の未来を担う。その思いを大切に、山陽特殊製鋼はこれからも躍進を続けます。



SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)